

ツガ-コカスゲ群集

Carici-Tsugetum sieboldii

<相観> 常緑針葉樹の高木林

<生育地> フナフラス域の太平洋側に分布している。鋭尖稜線部や急傾斜の礫石地など極端な乾性立地に発達している。紀伊山地や四国山地では、ヤブツバキフラス域上部とフナフラス域下部にまたがる移行帯として広く分布し、一部は時にもみられる。

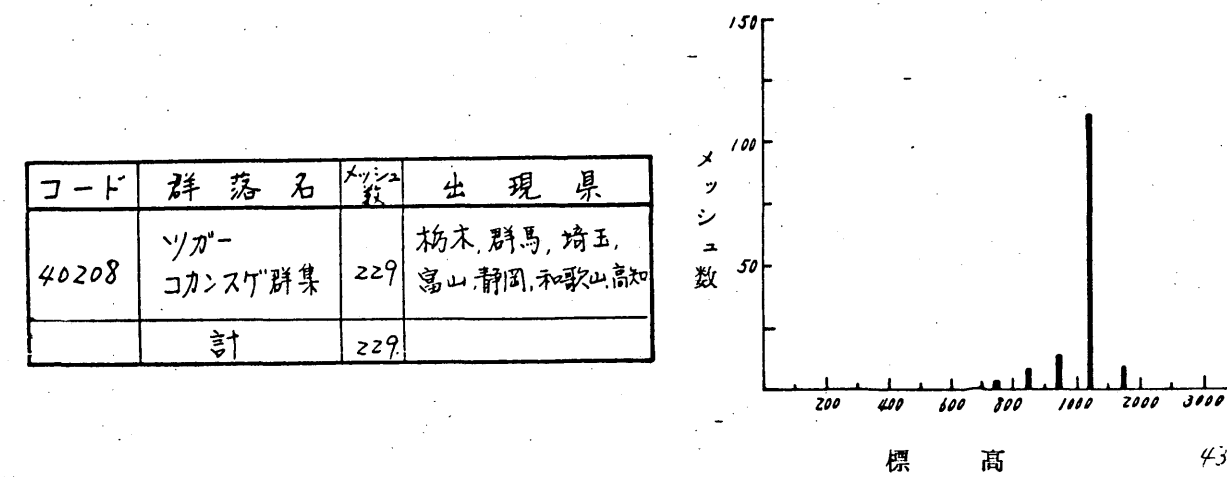
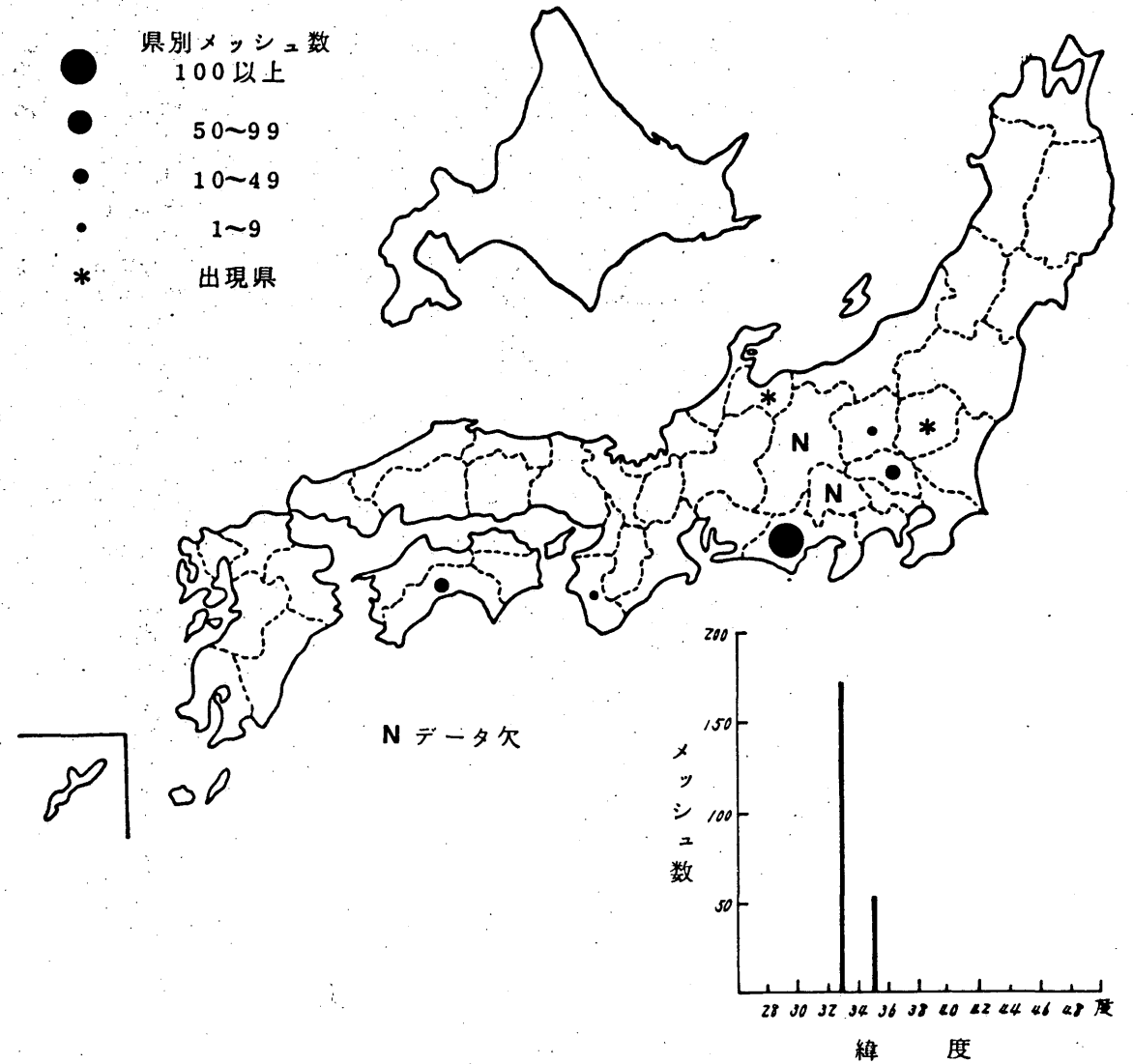
<種組成> 高木層にはツガが優占し、その他関東、東海地方ではヒメコマツ、クロベ、ウラジロモミ、モミなどの常緑針葉樹や、イヌブナ、ミスズナ、オノオシカンバなどの落葉広葉樹が混生している。四国地方ではツガが混生することが多い。亜高木層には高木層の雑樹の他、ヤマグルマ、シキミ、アセビなどの常緑広葉樹や、ナツツバキ、リュウブ、アカシラなどの落葉広葉樹が生育している。低木層には関東、東海地方ではアブラフワジ、ミツバフワジ、サラサドウダン、チケブドウダン、バイカフワジなどのフワジ科植物や、タカノツメ、ネジキ、アオハダ、コアジサイなどが多くみられるが、紀伊山地や四国山地ではススタケが優占することが多い。草本層にはコカスゲ、イワウチワ、ヤマイワカカミ、ソルシキミなどの常緑植物が広く生育している。この群落はツガ、アセビ、フルシキミ、コカスゲなどを特徴種、区別種としてツガ-コカスゲ群集にまとめられている。

<群落の特徴> 太平洋側のヤブツバキフラス域とフナフラス域の移行帯に分布しているツガの優占する常緑針葉樹高木林である。関東、東海地方では乾性地の土地の極相として生じ、紀伊、四国地方では気候的極相として広く発達している。

<分布> 栃木県多野山地から静岡県天竜川、大月川上流域にかけて線形には小国境にみられ、紀伊山地(標高800~1000m)、四国山地(900~1200m)では広い面積を占めて発達している。

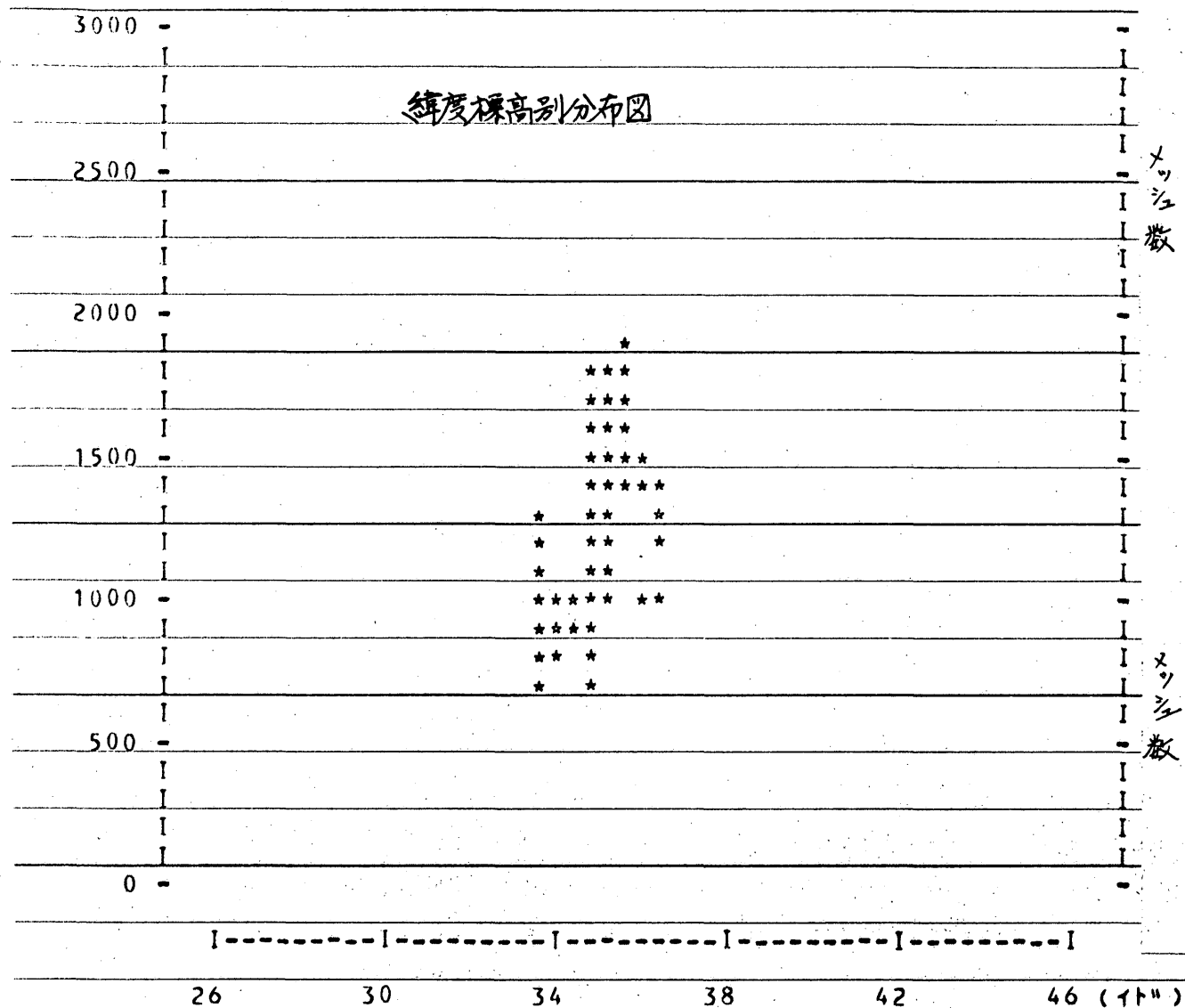
\*40208 ツガ-コカスゲ群集

- 100以上
- 50~99
- 10~49
- 1~9
- \* 出現県

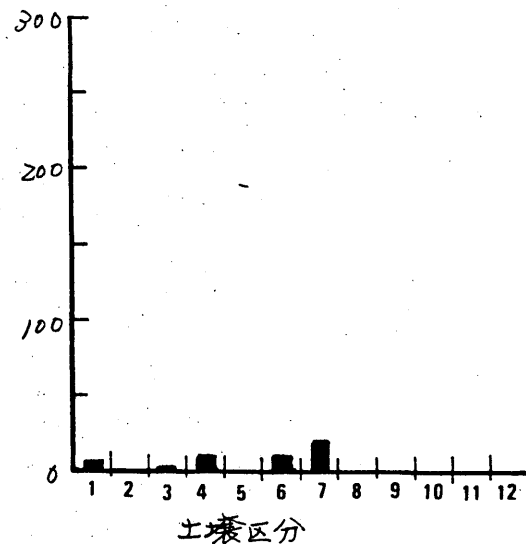


コード	群落名	メッシュ数	出現県
40208	ツガ-コカスゲ群集	229	栃木, 群馬, 埼玉, 富山, 静岡, 和歌山, 高知
	計	229	

緯度標高別分布図

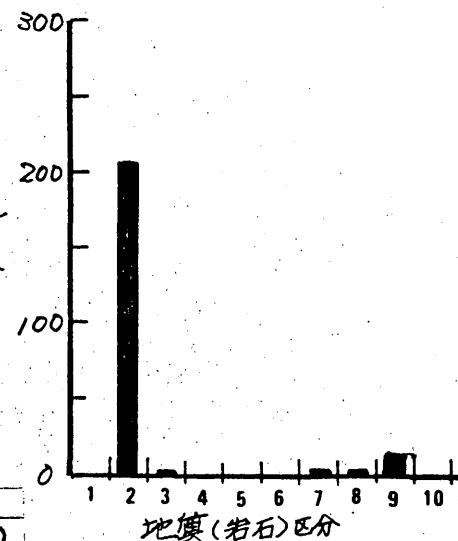


土壌区分別頻度図



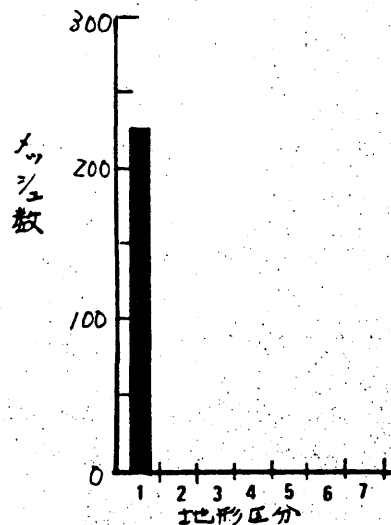
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

地質(岩石)区分別頻度図



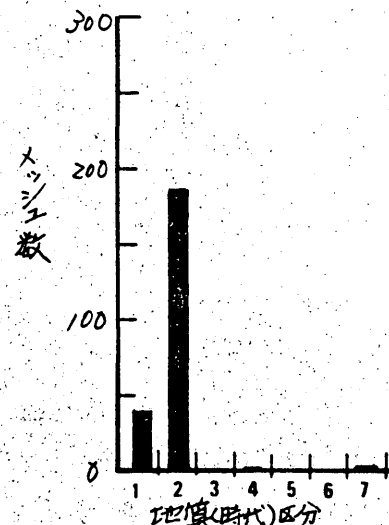
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 緩丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂州

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

エゾイタヤ-シノキ群落 *Acer mono var. glabrum - Tilia japonica* community

〈相観〉 落葉広葉樹の高木林，亜高木林。風衝地では低木林となる。

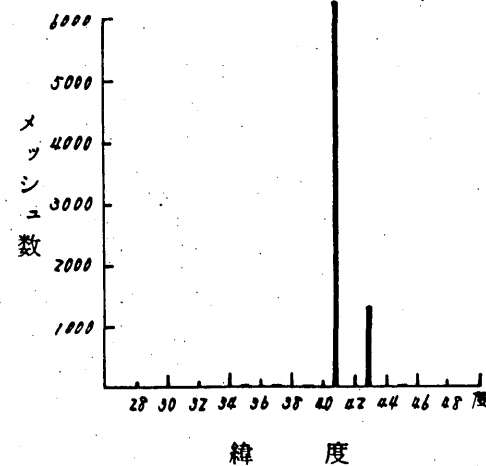
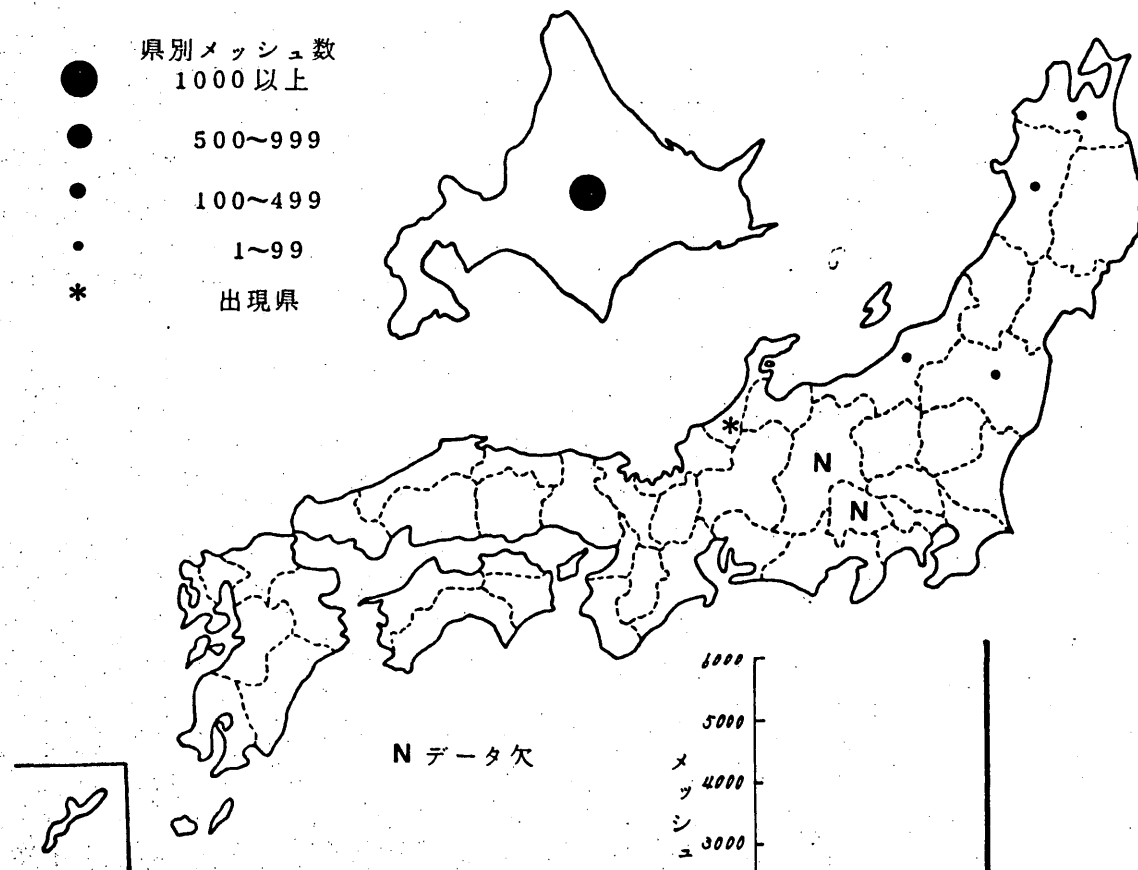
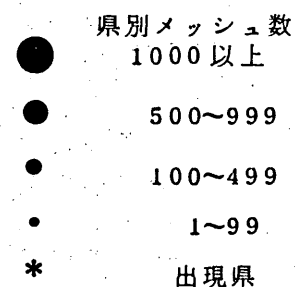
〈生育地〉 北海道の山地斜面のチシマササフナ群団の発達しない適潤～乾性立地に広く分布している。東北から北陸地方にかけては激しい季節風を受ける海辺にみられる。多くは海崖中部以上のやや安定した平坦地から内陸の谷をいにかけて成立し，土壌は粘エヤ礫を交え比較的発達している。

〈花組成〉 高木層には一般にエゾイタヤが優占し，ところによってミズナラ，シノキ，ケヤキ，カシワ，ヤナギなどが優占している。この地北海道ではアサギ，サワレバ，オオノキ，オトコブシ，アズキナシ，ヤマモミジ，オオバコダイジュ，アオダモ，ハリギリなど多量の落葉広葉樹が混生している。低木層には日本海側ではチシマササフナが太平洋側ではスズダケ，フメイササ，北海道のアイスミヤコササが特徴的にみられ，エゾイタヤ，ノリウツキ，アブラヤカンなどの落葉広葉樹もみられる。草本層は北海道では地帯の差異によりオニシモツケ，オオウバユリなどの大型多年生草本植物，ルイヨウショウマ，サラシトショウマ，コンロンソウなどの中型多年生草本植物，オシタ，シラネフラスビ，フサソテフなどのシダ植物などの優占する数タイプに区別される。東北，北陸地方ではイブキヌカバ，タマバシロヨメナ，ケナシヤマシシウド，オニトコロなどが生育している。

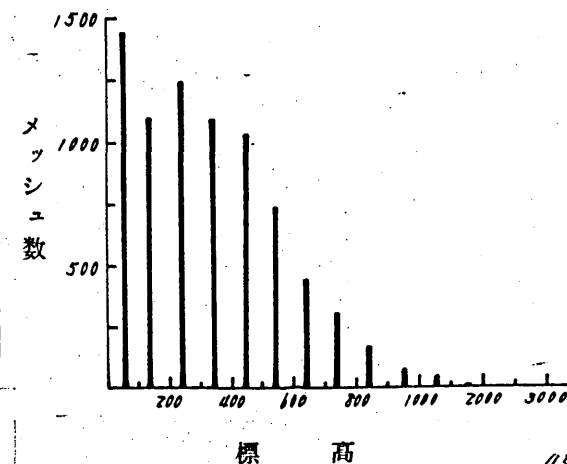
〈群落の特徴〉 北海道の山地全域，東北，北陸の海辺に分布しているエゾイタヤ，ミズナラ，ケヤキなどの優占する落葉広葉樹の高木林である。

〈その地〉 北海道では山地斜面の乾性地の自然植生として発達するばかりでなく，針広混交林の択伐をうけた代償植生としても成立し，大面積で広がっている。東北，北陸地方では海崖を中心にみられ，フロマフの植林化が進んでいる沿岸域において，数少ない自然植生として貴重である。

\*40300 エゾイタヤ-シノキ群落

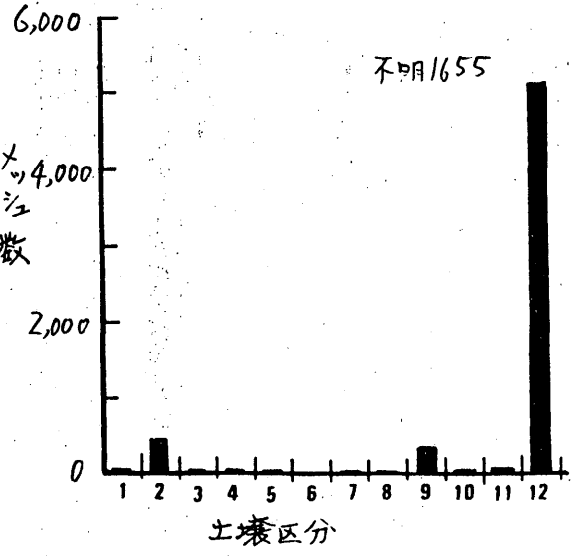
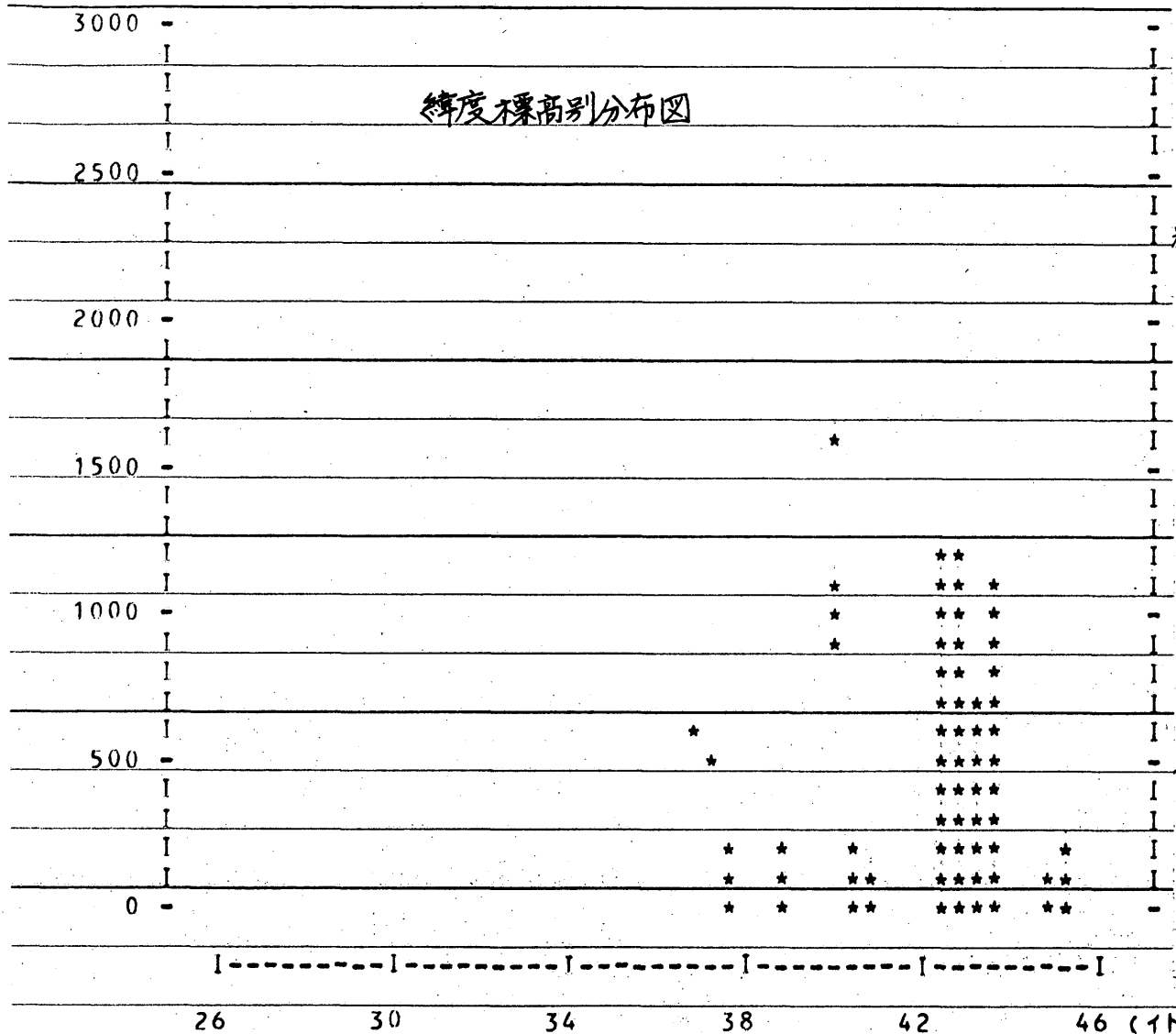


コード	群落名	メッシュ数	出現県
40300A	エゾイタヤ-シノキ群落	7658	北海道 <sup>*</sup> , 青森, 秋田, 福島, 新潟, 石川
40300B	ミズナラ群落	7	北海道
40300C	エゾイタヤ群落	1	北海道
	計	7666	



\*1県で2群落以上出現する場合，メッシュ数のもとより群落

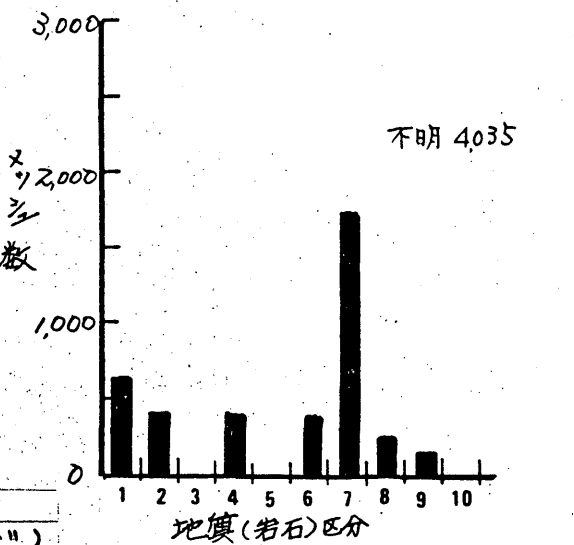
緯度標高別分布図



土壌区分別頻度図

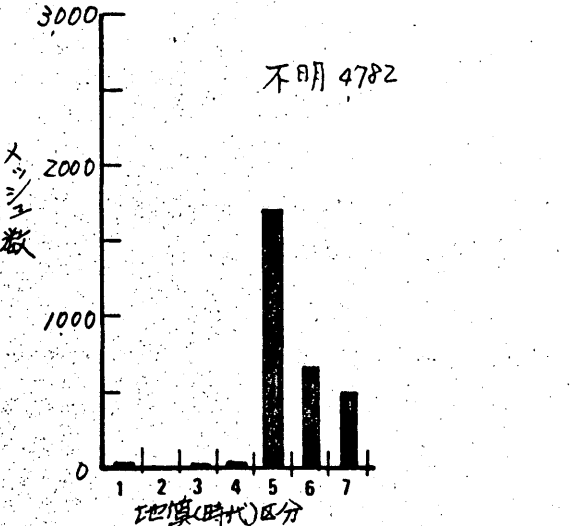
- 1 岩屑土
  - 2 未熟土
  - 3 黒ボク土
  - 4 乾性褐色森林土
  - 5 褐色森林土
  - 6 湿性褐色森林土
  - 7 ホドソル
  - 8 赤黄色土
  - 9 低地土
  - 10 グライ土
  - 11 泥炭土
  - 12 その他
- (凡例改訂が行われ  
たところ、北海道の  
4, 5, 6を含むと  
考えられる。)

地質(岩石)区分別頻度図



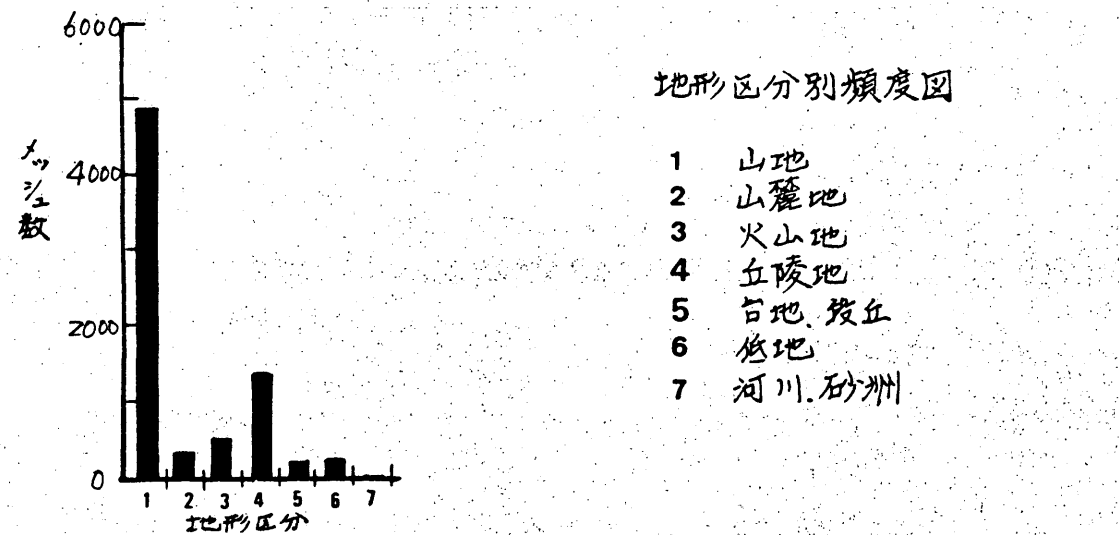
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 緩丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂洲

ヒノキアスタロ群落 *Thujopsis dolabrata* var. *hondae* community

<相観> 常緑針葉樹の高木林。ヒノキアスタロまたはアスタロの純林に近いものから、ブナとの針広混交林となるものまでみられる。

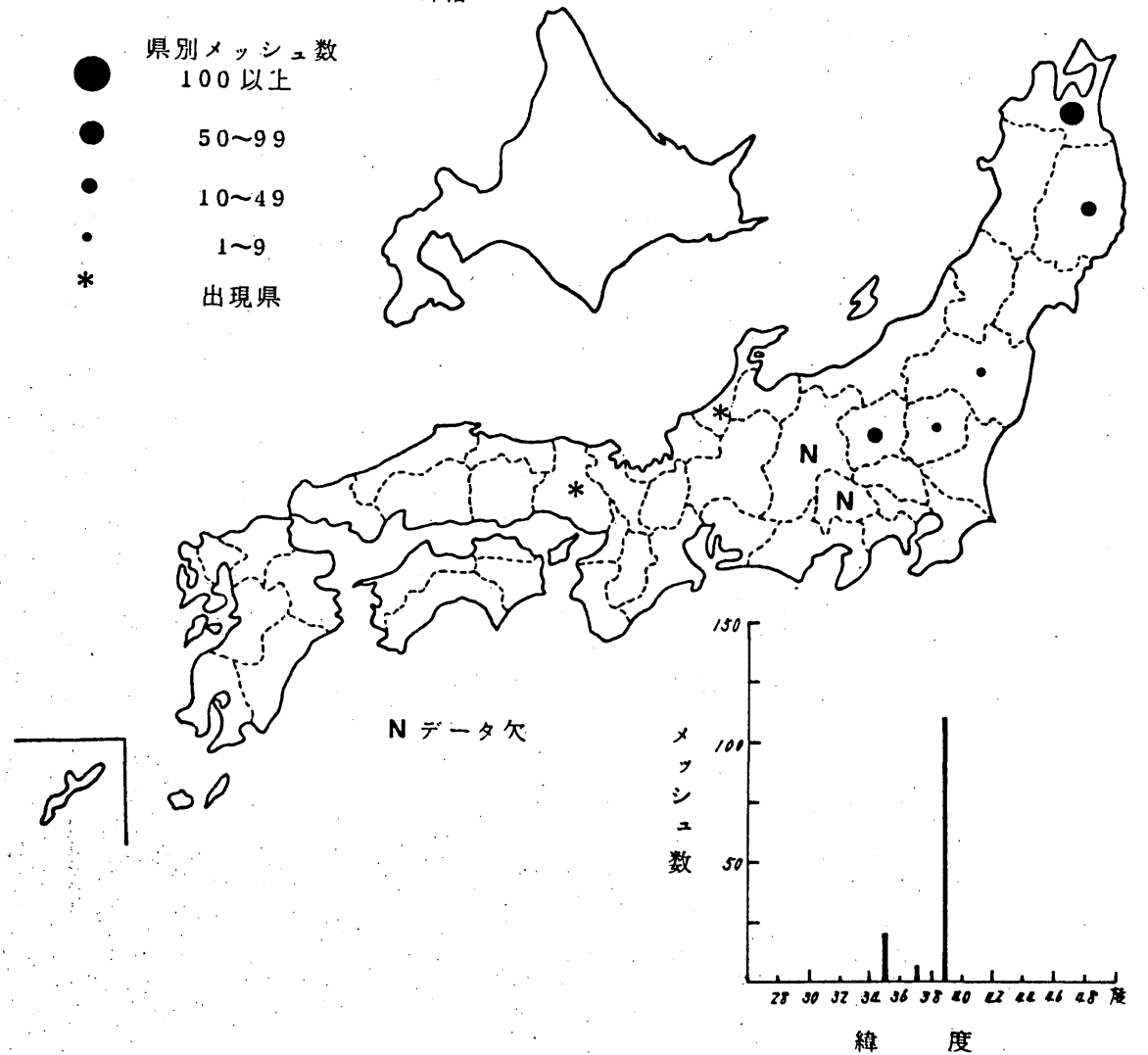
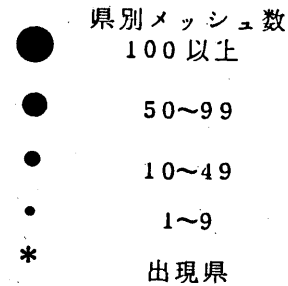
<生育地> 日本海側多雪地帯のブナクラス域下部を中心としている。深谷沿いの急傾斜の凸状地など土壌の浅い通潤性~湿性の立地にみられ、蛇紋岩地や火砕流堆積地など特殊な地質のところにも多い。

<種組成> ヒノキアスタロ群落はヒノキアスタロの伏存更新が著しく、高木層から低木層までヒノキアスタロが優占していることが多い。高木層、亜高木層には他に、ブナ、アカシデ、サワシバなどの落葉広葉樹を混生。ところによりフロベ、ヒメコマツ、スギなどの常緑針葉樹も生育している。低木層にはホクレンなどのワジ科植物が、草本層にはシノブカグマ、オレダ、オオイワカガミなどが低被度でみられる。アスタロ群落は高木層にアスタロが優占し、亜高木層にはタカノツメ、ネジキなどの落葉広葉樹も混生している。低木層には東北地方ではムラサキヤシオ、コヨウラクソウなどがみられ、近畿地方ではクロソヨコ、シヤクナゲなどがみられる。

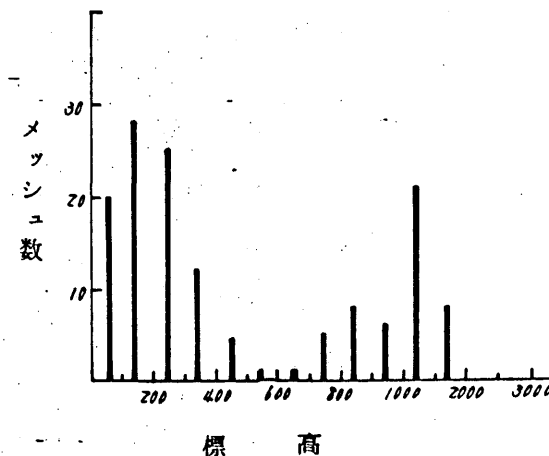
<群落の特徴> 日本海側多雪地帯のブナクラス域にみられるヒノキアスタロまたはアスタロの優占する常緑針葉樹の高木林である。

<分布> ヒノキアスタロ群落は青森県津軽、下北半島に最も広い面積を占めて広がり、北上山地早池峯山をはじめ北日本に点在し、能登半島を南限としている。アスタロ群落は北関東から中国山地東部までの西日本にみられる。

\*40500 ヒノキアスタロ群落



コード	群落名	メッシュ数	出現県
40500A	ヒノキアスタロ群落	128	青森, 岩手, 群馬, 石川
40500B	アスタロ群落	10	福島, 栃木, 兵庫
	計	138	

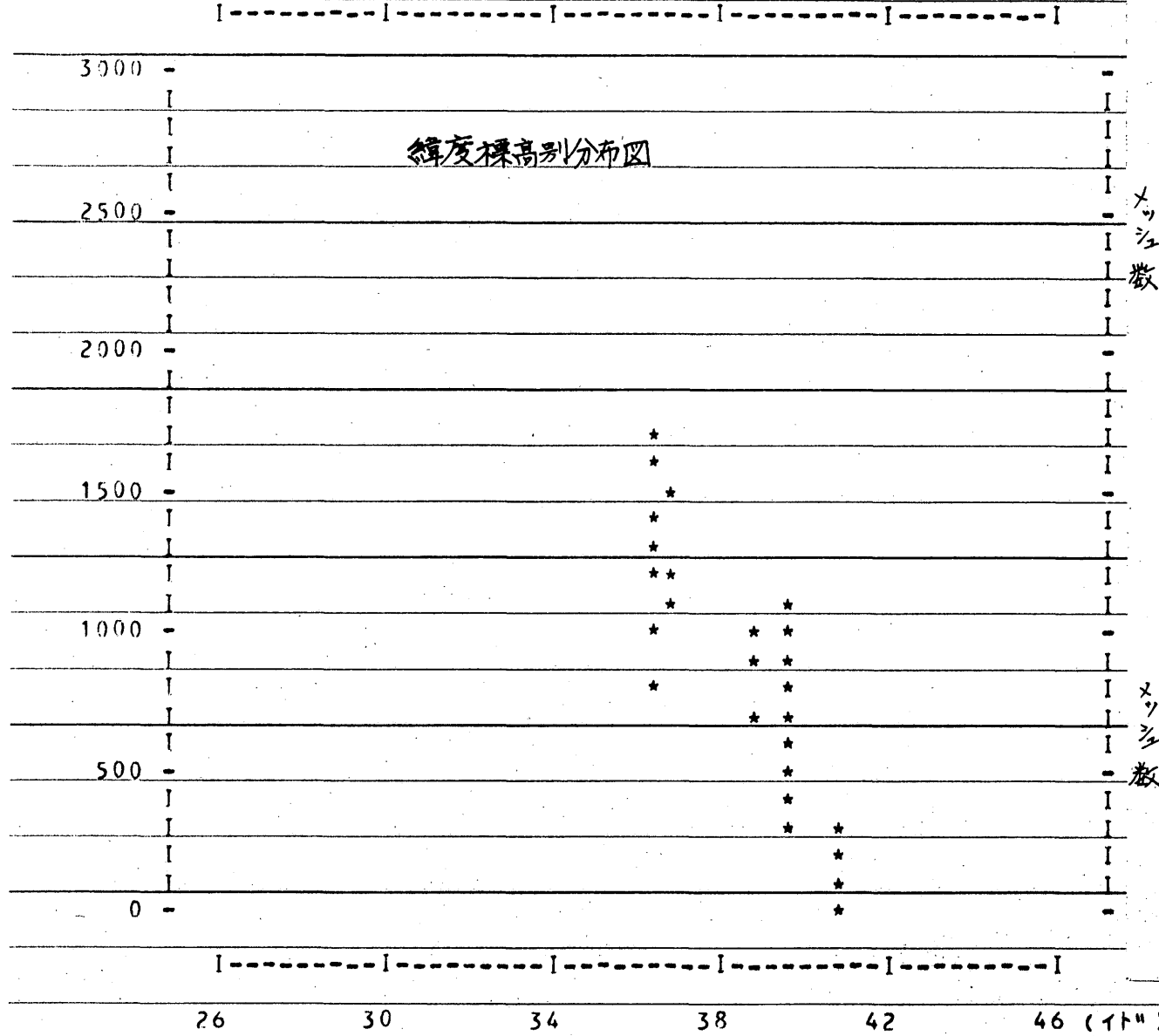


(ヒヨウコウ)

# ヒノキアスナロ群落

( \*40500 )

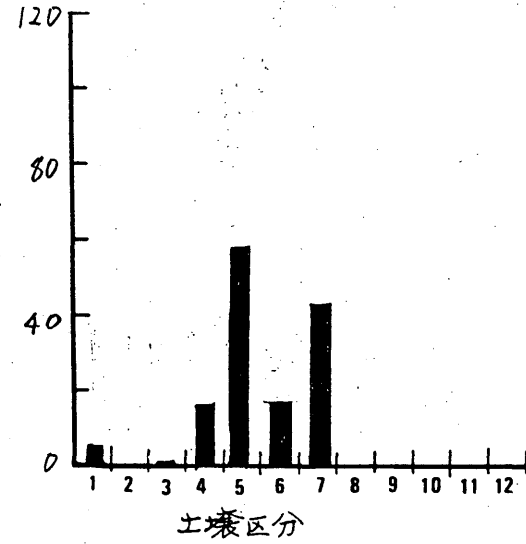
### 緯度標高別分布図



メッシュ数

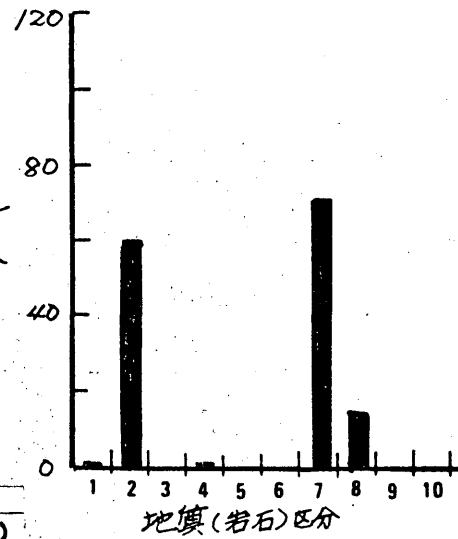
メッシュ数

### 土壌区分別頻度図



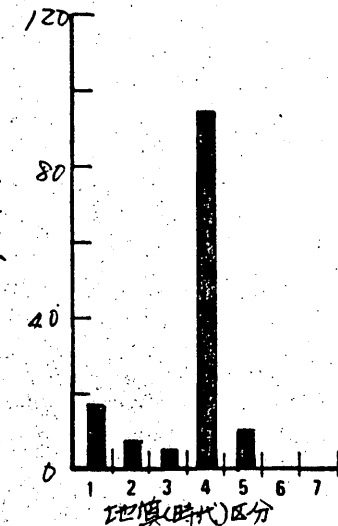
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ポドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

### 地質(岩石)区分別頻度図



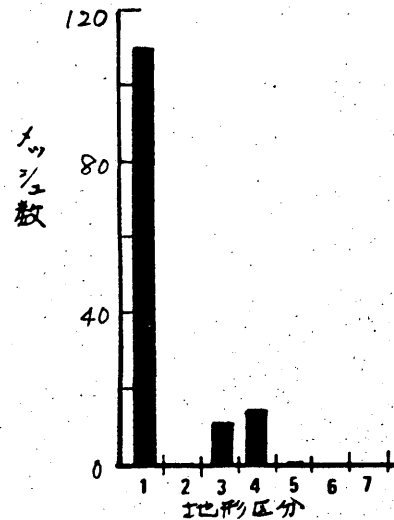
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

### 地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

### 地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 残丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂洲

メッシュ数

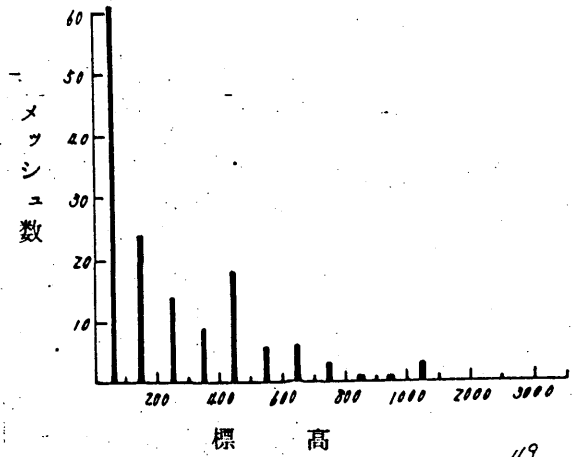
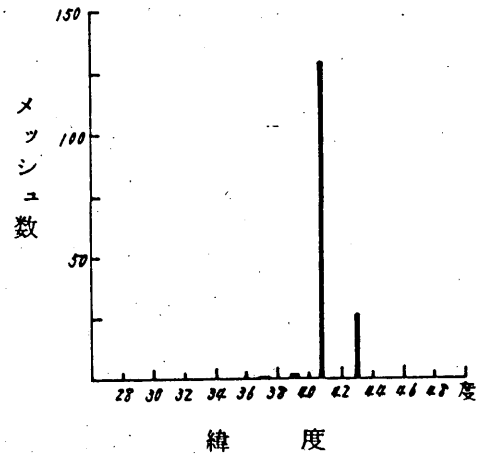
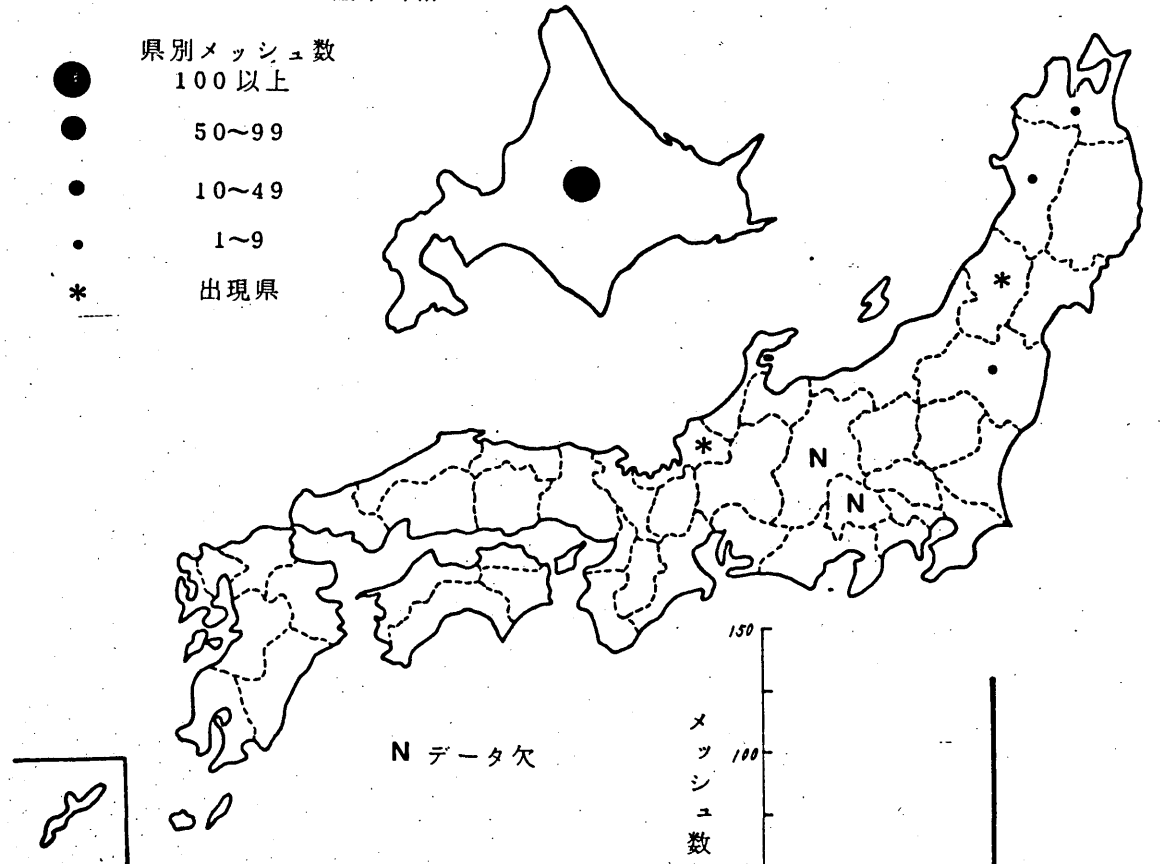
ヤナギ低木群落

Salix spp. shrub community

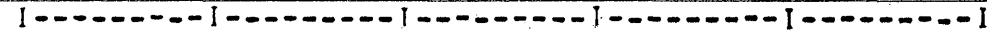
〈相観〉落葉広葉樹の亜高木林，低木林。  
 〈生育地〉河畔または湖沼畔，あるいは透水性のよい低湿地など  
 なる所の水湿地に分布している。河畔では，上～中流部の粘土や砂  
 礫の堆積するやや不安定な立地にみられる。またイヌコリヤナギ群  
 落は新生火山の火山礫地にも典型的に生ずる。  
 〈種組成〉亜高木層または低木層にオノエヤナギ，タチヤナギ，  
 イヌコリヤナギが広くみられ，その他，北海道ではエゾノキヌヤナ  
 ギ，エゾノバフコヤナギ，エゾノカフヤナギなど，本州ではシロヤ  
 ナギ，カフヤナギ，オオヤマネコヤナギ，コゴメヤナギなどが混生  
 し群落を形成することが多い。草本層はタデ属などの一年生草本植物  
 を主とするものから，カワラヨモギ，ススキなどの多年生草本植物  
 を主とするものまで，流水作用に関連して河川遷移段階のものがみられる。ヤナ  
 ギ低木群落に侵入するヤナギ属植物はヤナギ高木群落と共通種が多  
 く，両者の種組成上の区別は困難である。  
 〈群落の特徴〉河畔，低湿地などの水湿な立地にみられるヤナギ  
 属植物の優占する落葉広葉樹の低木林である。一般にタチヤナギ，  
 イヌコリヤナギ，オノエヤナギなどが優占している。  
 〈分布〉アナウラス域の河川の上～中流域に帯状にみられる。  
 〈その他〉近年河川改修などのためヤナギ低木群落は減少してい  
 る。しかし，水質浄化，景観形成，水辺の立地保全の観点から，同群  
 落を積極的に活用することが望まれる。

\*41300 ヤナギ低木群落

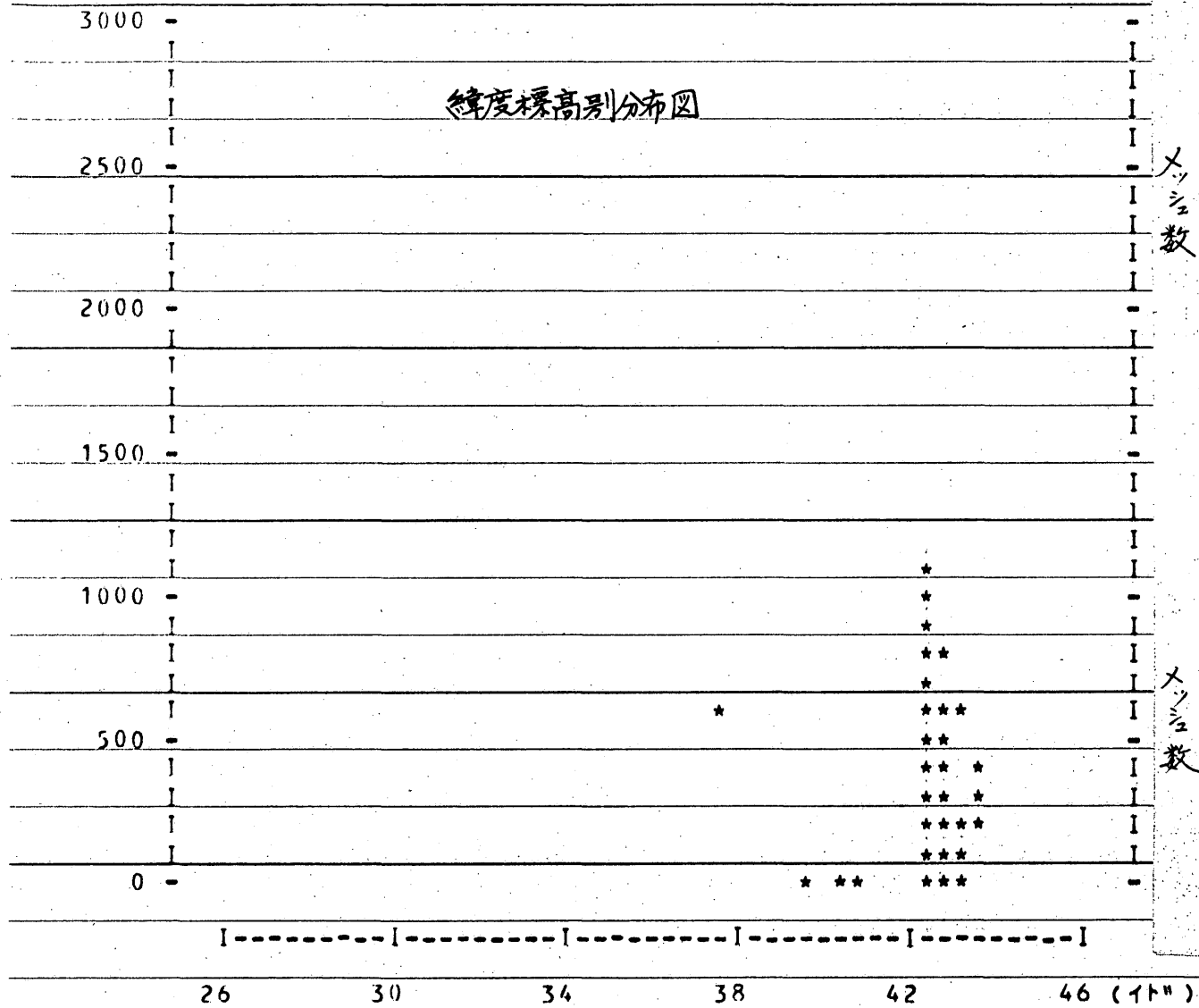
- 100以上
- 50～99
- 10～49
- 1～9
- \* 出現県



コード	群落名	メッシュ数	出現県
41300A	ヤナギ低木群落	168	北海道, 青森, 秋田, 福島
41300B	ヤナギ低木林	0	山形, 福井
	計	168	

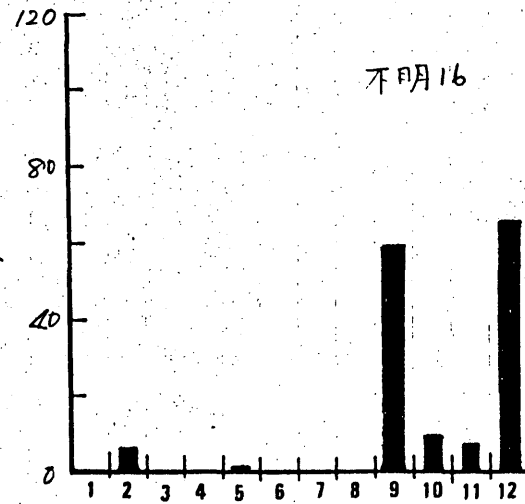


緯度標高別分布図



サンプル数

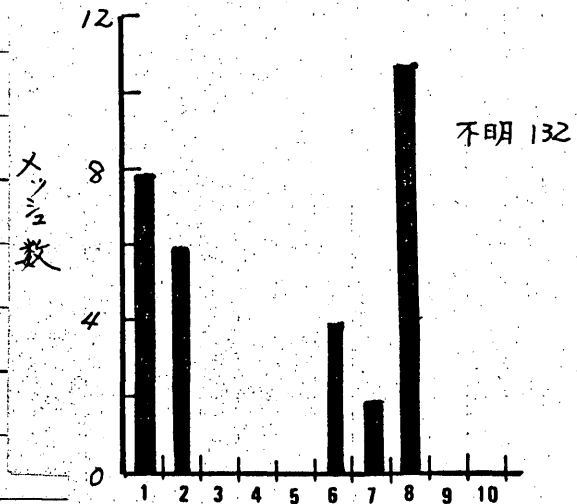
土壌区分別頻度図



不明 16

- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホトソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

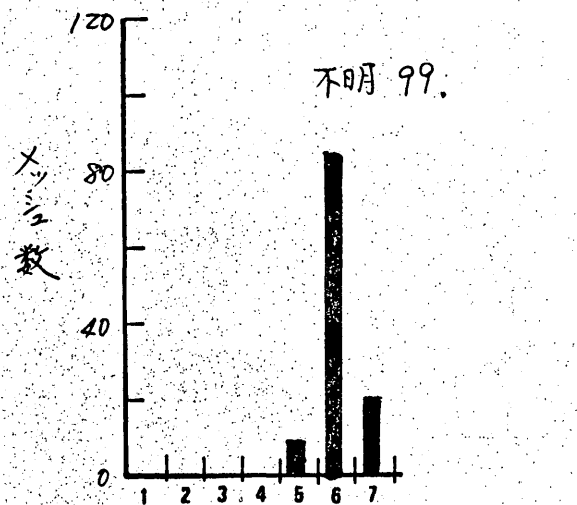
地質(岩石)区分別頻度図



不明 132

- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

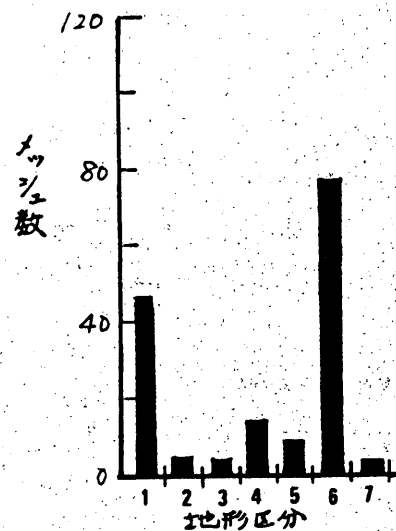
地質(時代)区分別頻度図



不明 99

- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 残丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂洲



ハンノキ群落

*Alnus japonica* community

〈相観〉落葉広葉樹の高木林、亜高木林、低木林。高木層と草本層のみがよく発達した2層構造が一般的である。

〈生育地〉湿原、沼沢地などの停滞水で常に浸されている水湿地に分布している。土壌はグライ化している。水深が余り深くなると減る。

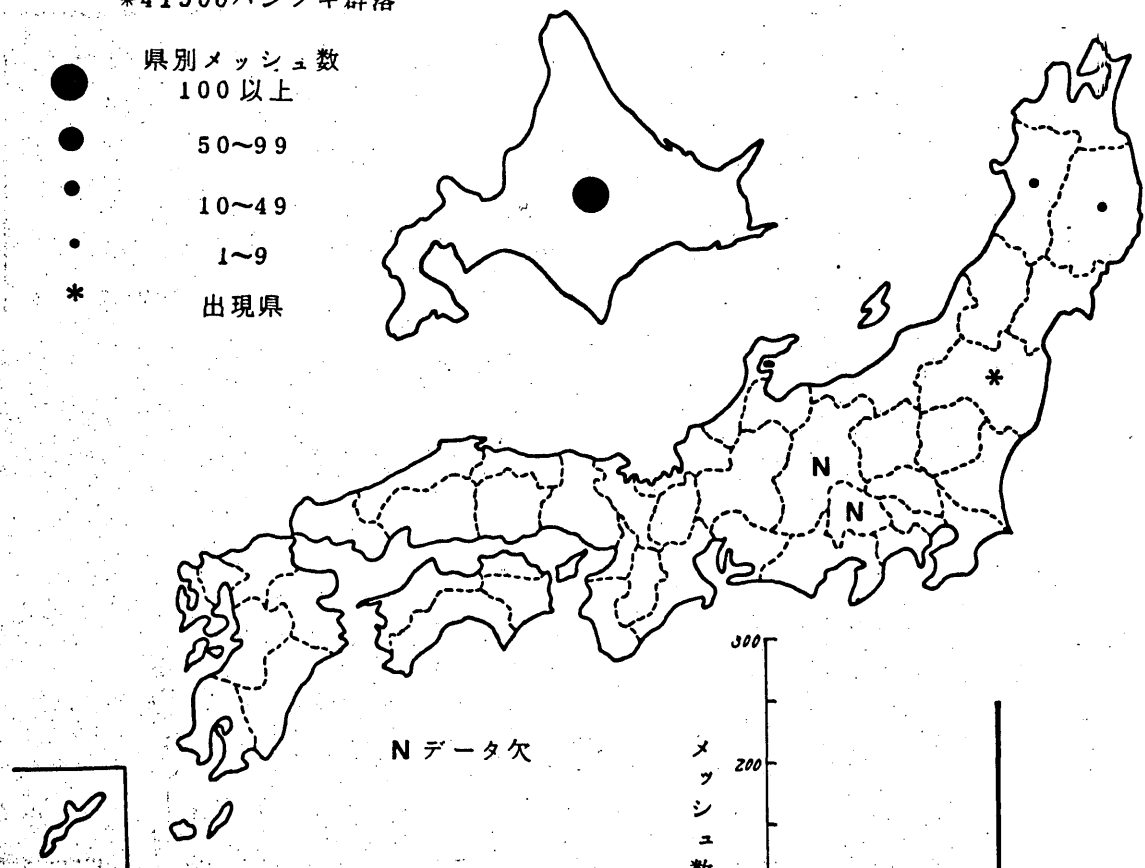
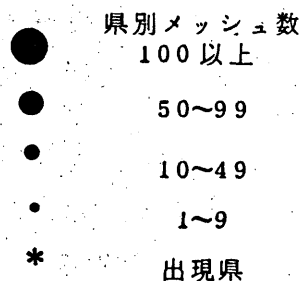
〈種組成〉高木層または亜高木層にはハンノキが優占している。低木層はあまり発達せずミズイソノキ、ハイイヌフゲ、イヌフゲなどが散生する。草本層にはヒメシダ、ヤマトリゼンマイ、ニッコウシダ、ツニヘゴ、トフサなどのシダ植物、ミスバショウ、バイケイソウなどの大型多年生草本植物、ミゾソバなどの1年生草本植物、カササゲ、ハリカネスゲ、グリーンズゲなどのスゲ属植物、およびヨレ、ササ類など各種の雑草が立地条件の差異に対応して優占している。その他、ヒメシロネ、サワギキョウ、ミスオトギリ、クサレタマ、サワヒヨドリ、タケノコウシなどが広くみられる。

〈群落の特徴〉ブナフラス域を中心とする水湿地に分布するハンノキの優占する落葉広葉樹林である。

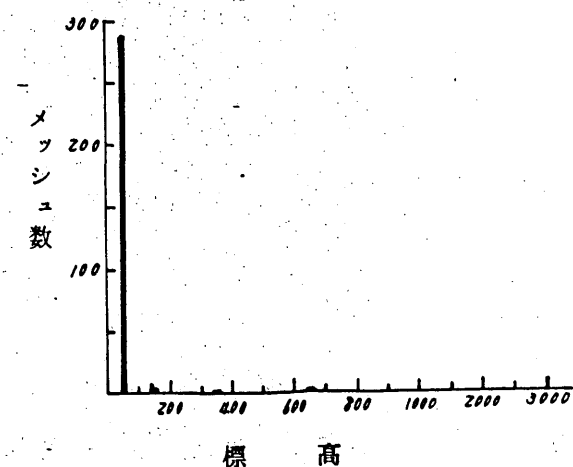
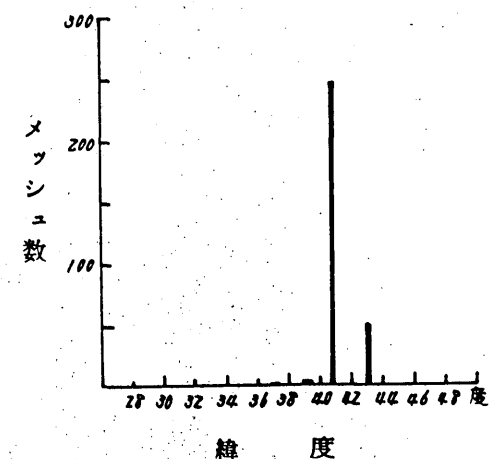
〈分布〉北海道から東北にかけて、各地の水湿地に分布している。

〈その他〉ハンノキ群落より、内陸側のやや乾燥化した立地にはハンノキ-ヤチタモ群落が分布している。沖積低地の景観として重要である。保全には維持されるべき水量、水位、単位時間別の流水量などを考慮した保全対策が必要である。

\*41500ハンノキ群落



N データ欠



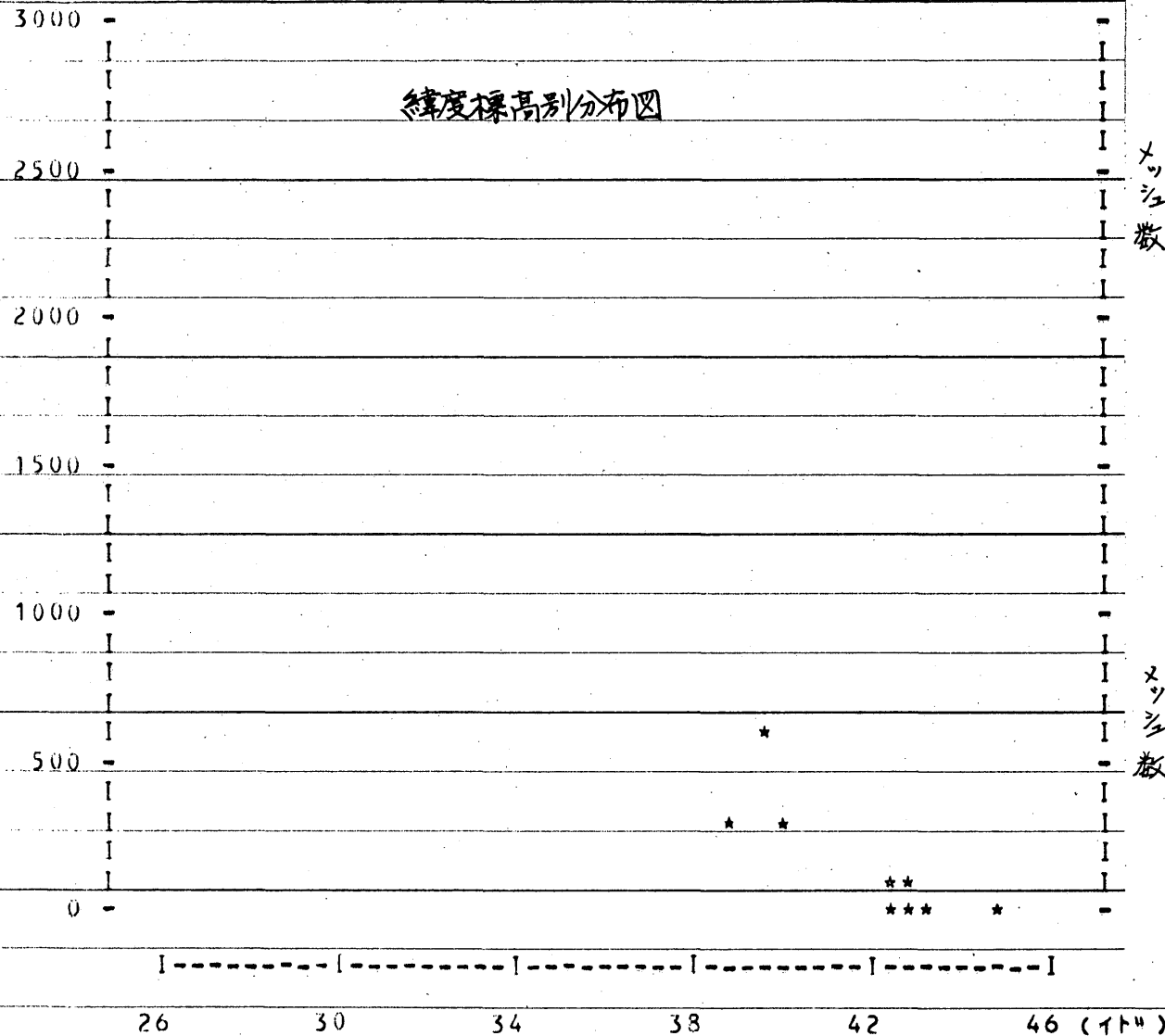
コード	群落名	メッシュ数	出現県
41500	ハンノキ群落	303	北海道, 岩手 秋田, 福島
	計	303	

(ヒヨウ)

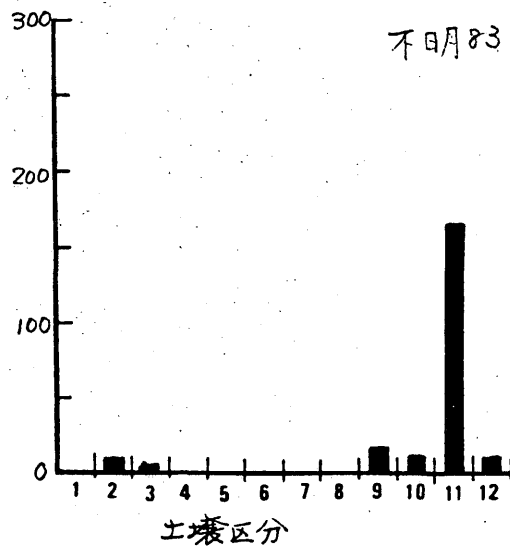
# ハンキ群落

( \*41500 )

### 緯度標高別分布図

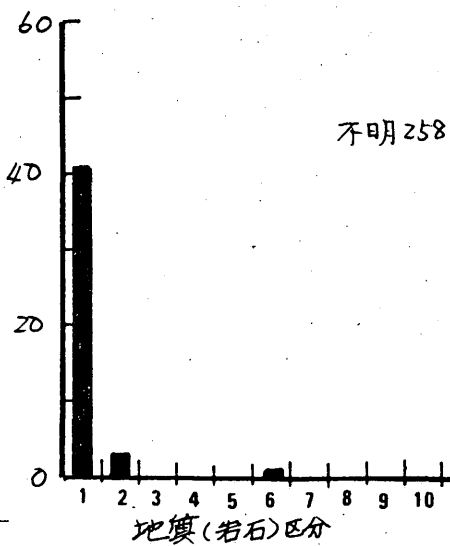


### 土壌区分別頻度図



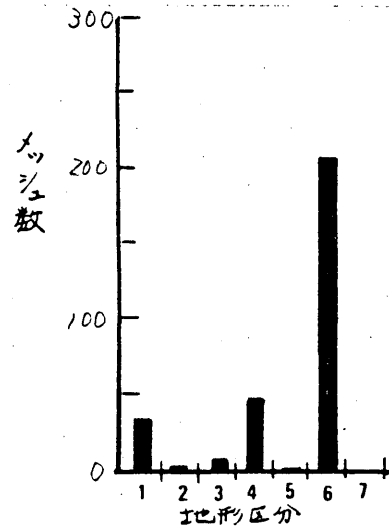
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホトソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

### 地質(岩石)区分別頻度図



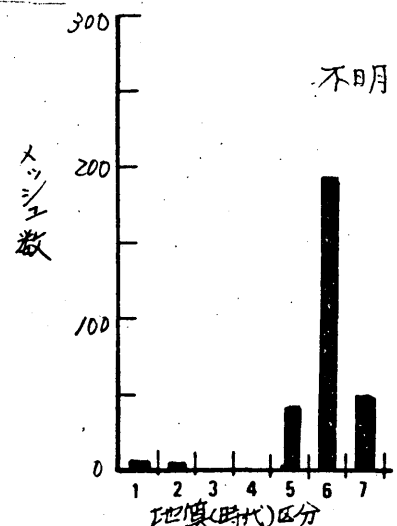
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

### 地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 緩丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂洲

### 地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

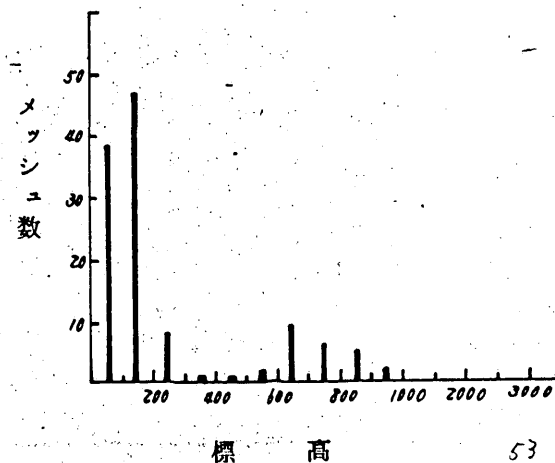
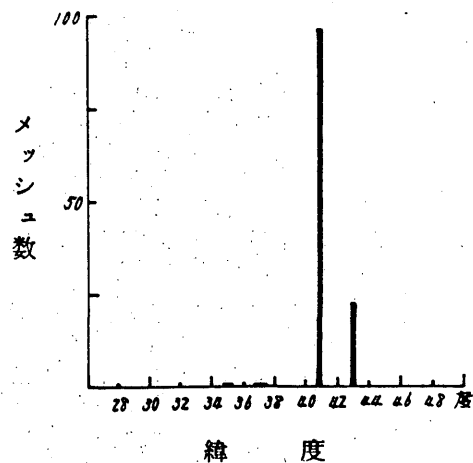
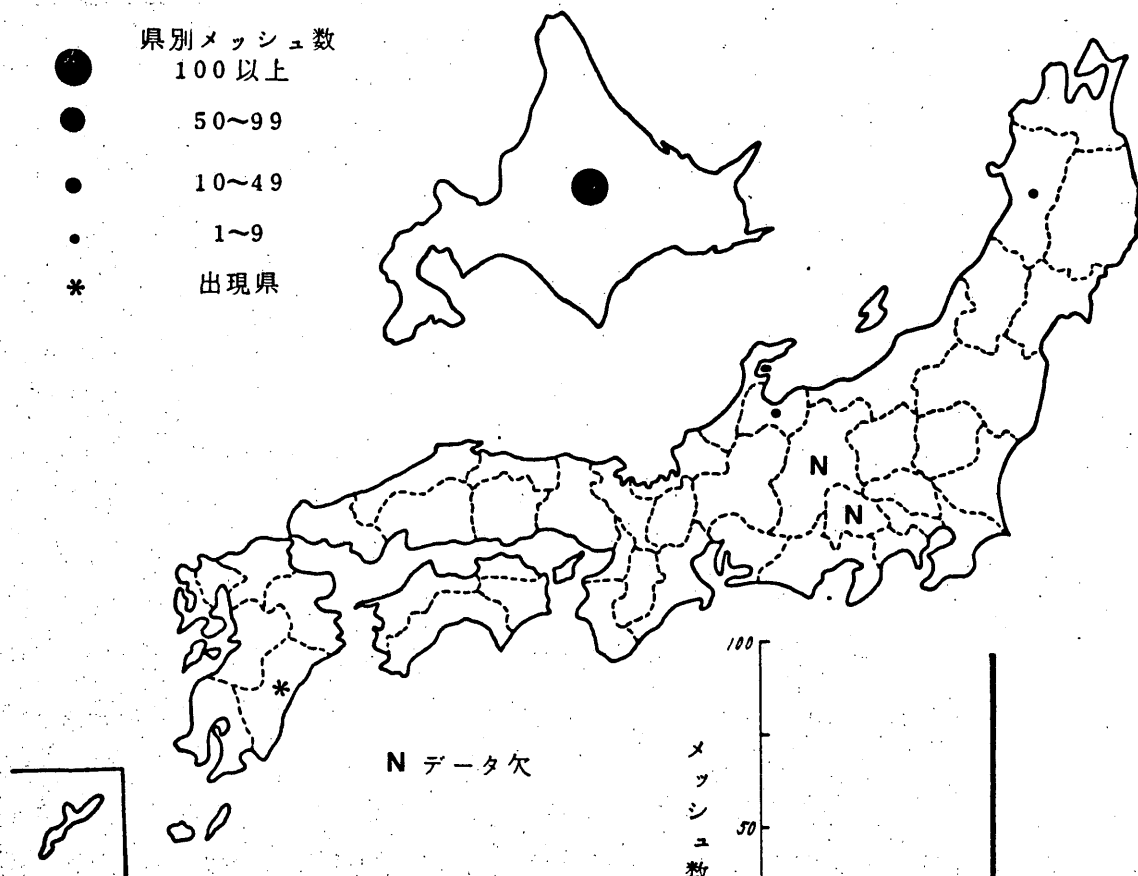
ヤマハンノキ群落

*Alnus hirsuta* community

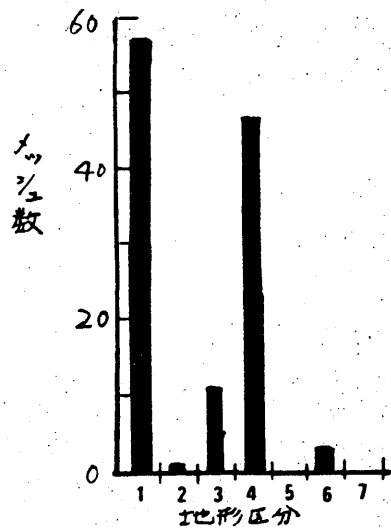
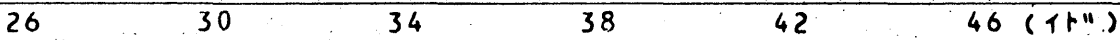
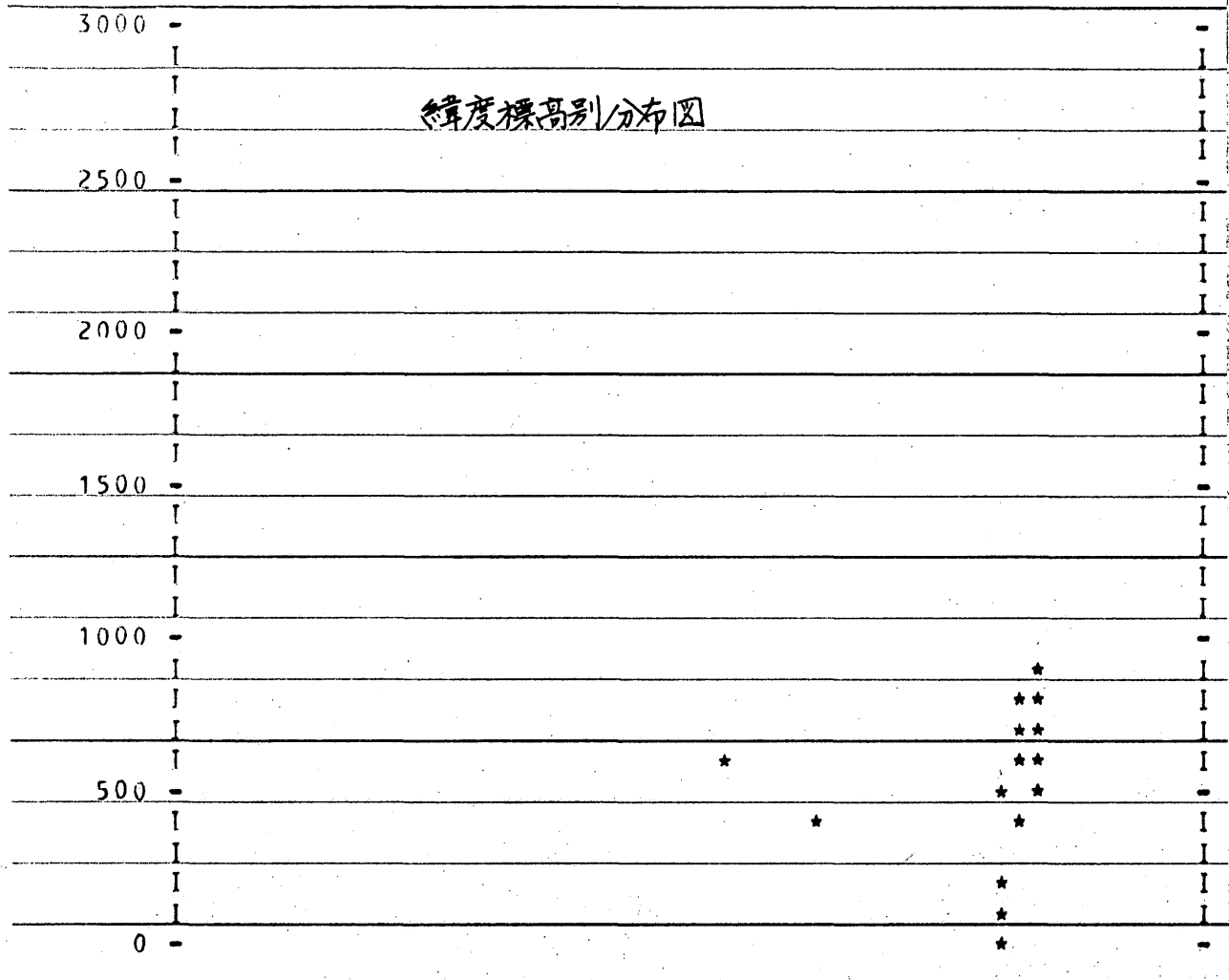
〈相観〉落葉広葉樹の高木林，亜高木林。群落高15m程度である。  
 〈生育地〉谷筋の通潤～やや湿性の立地のほか，崩壊跡地，山火事跡地などの斜面の乾性立地にも先駆的に生育する。  
 〈種組成〉高木層にはヤマハンノキが優占し一斉林となっていることが多い。またヤマハンノキは無肥植物のなかではやや耐陰性が大きく，針葉樹や他の広葉樹と混生していることもある。北海道ではエゾマツ，トドマツなどの針葉樹が，本州中部にかけてはエゾイタヤ，ヤマモミジ，ハウチワカエデ，ヤケタモなどの広葉樹が，全国的にはハルニレ，オヒョウ，ハリギリ，イヌシラ，ミズナラなどの広葉樹がヤマハンノキに混生してみられるが，次第にこれらの樹種におきかえられてしまう。低木層には高木層の構成樹木の幼樹や，クマイササ，チシマササなどのササが生育している。草本層にはスゲ属植物や，スキナ，クサソテフなどのシダ植物，ムカゴイラクサ，サラシシロウマ，ネウケヤクソク，ヤマカモジケサなどが生育している。  
 〈群落の特徴〉谷筋の湿性立地，山地斜面の乾性立地などに先駆的に生育するヤマハンノキの優占する落葉広葉樹高木林である。氾濫，崩壊，山火事などによって生じた裸地が，本来の森林に復元していく過程で形成される。  
 〈分布〉全国のアナクラス域に点在している。  
 〈その他〉ヤマハンノキは治山用樹木，肥料木として利用されている。

\*41600ヤマハンノキ群落

- 100以上
- 50~99
- 10~49
- 1~9
- \* 出現県



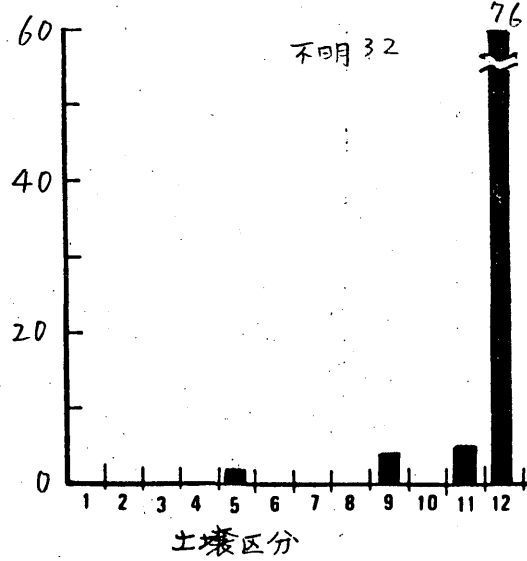
コード	群落名	メッシュ数	出現県
41600	ヤマハンノキ群落	119	北海道，秋田， 富山，宮崎
	計	119	



地形区別頻度図

- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、残丘
- 6 低地
- 7 河川、砂洲

メッシュ数

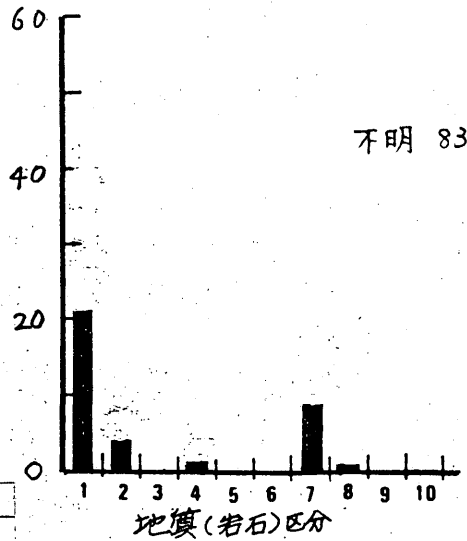


土壌区別頻度図

- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

(凡例改訂が行われ  
たところ、北海道の  
4, 5, 6を合算と  
考えられる。)

土壌区分

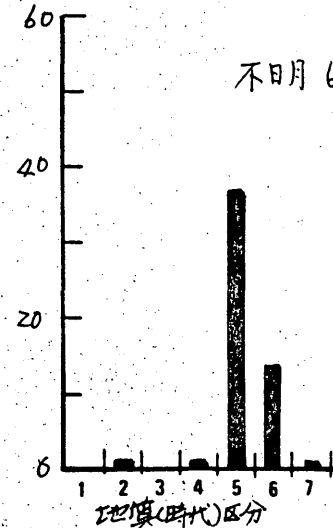


地質(岩石)区別頻度図

- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石(火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石(安山岩、玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地質(岩石)区分

地質(時代)区別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

地質(時代)区分

自然低木群落

Natural shrub

<相観> 落葉広葉樹の低木林。群落高は2~4m程度である。風衝地では樹冠が刈り込まれたような風衝型をなし、山地の急傾斜地では樹幹基部がほよくしたほよく型をなしている。

<生育地> フナクラス域の冬季季節風と多雪の影響を強く受ける貧養立地に見られる。北日本では山地の風衝地、雪崩地、種雪量の多いところに一般的に分布しているが、北海道~東北北部では海岸の風衝地にもみられる。西日本では山地の風衝地、露岩地などに分布している。

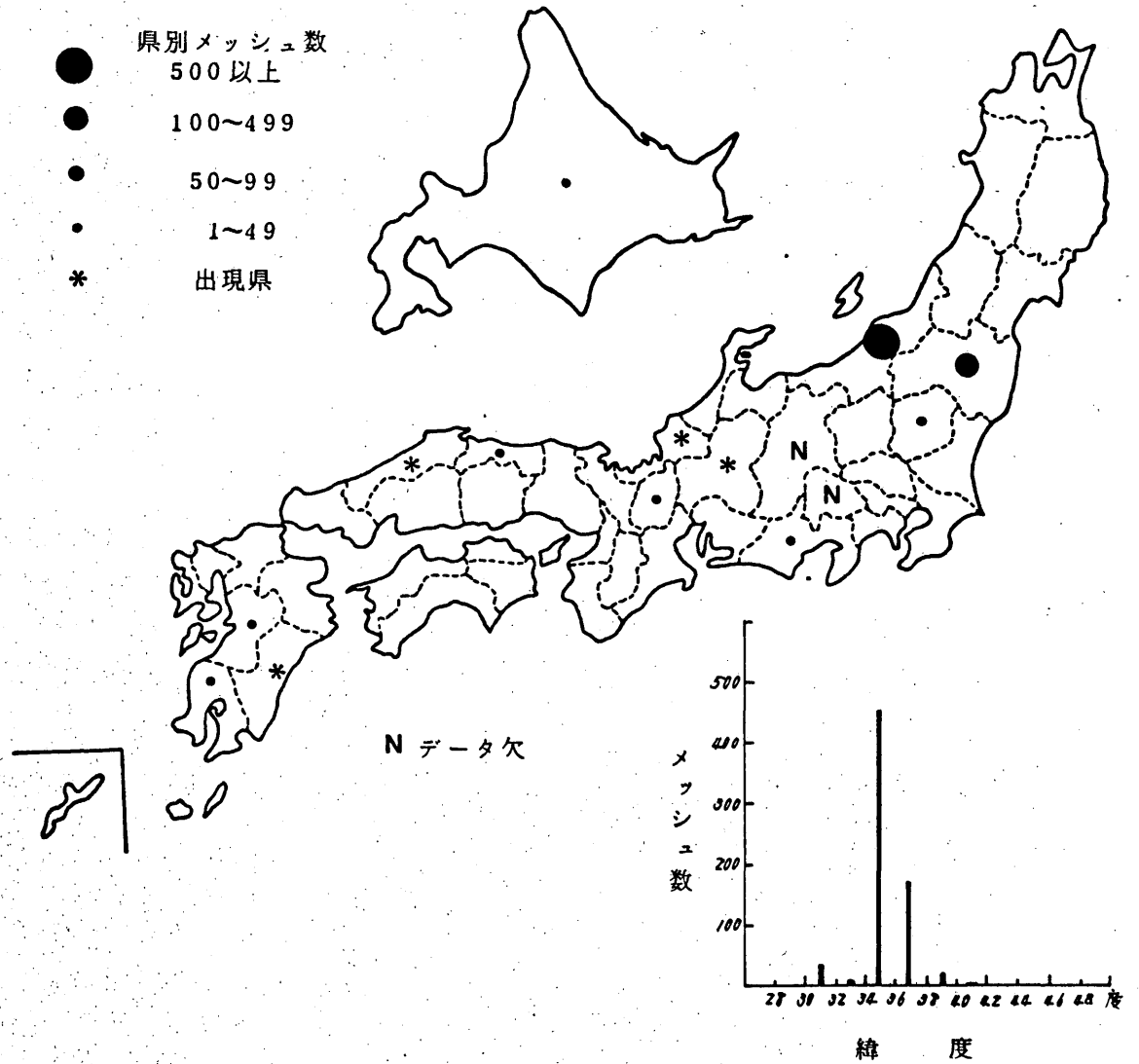
<種組成> 北日本では山地・風衝地にミスナラヤミヤマナラが優占し、崩壊地、雪崩地ではヒメヤシマブシ、タニウツキが、種雪量の多い谷筋では低標高からヤマモミジ、オオバツツジ、ミヤマカワラハンノキ、ヤハズハンノキなど各種の落葉広葉樹が優占している。また、海岸の風衝地ではカシワ、エゾイタヤが優占している。西日本では山地の風衝地にノリウツキ、ニシキウツキ、ヤシマブシなどが優占し、露岩地にはヤマゲルマが優占することもある。これらの優占種が異なる各種の群落は、低木層および草本層の構成種もそれぞれ異なっている。北日本山地の風衝地ではウラジロユウラフミヤマナラ群団の種組成に類似し、崩壊地ではヒメヤシマブシ・タニウツキ群落、多雪地ではミドリユキササ・ダケカンバ群団の組成に近似している。海岸風衝地ではエゾイタヤ・シナノキ群落の構成種が多い。西日本の山地風衝地ではクロモジ・アブチ群落やスズケ・アブチ群団、ツカンスゲ・ツカササ群落の組成に比較的近似している。

<群落の特徴> フナクラス域の風衝地、雪崩地、多雪地、露岩地など、高木林が成立しえない厳しい環境条件のところに分布する落葉広葉樹の低木林である。種組成の異なる多くの群落を一括している。

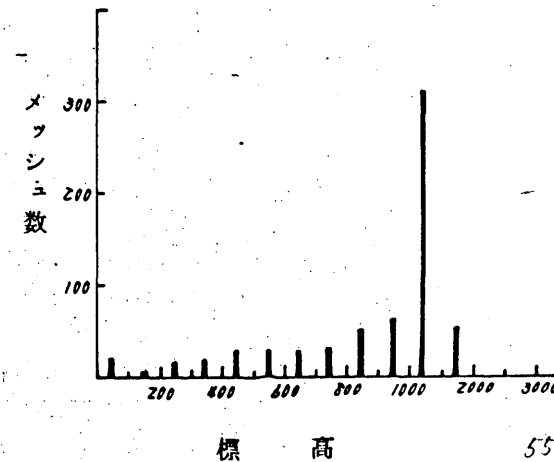
<その他> 比較的種組成の明瞭なものについては、群集、群団名を用いて表示する方が適当であると考えられる。

\*41700 自然低木群落

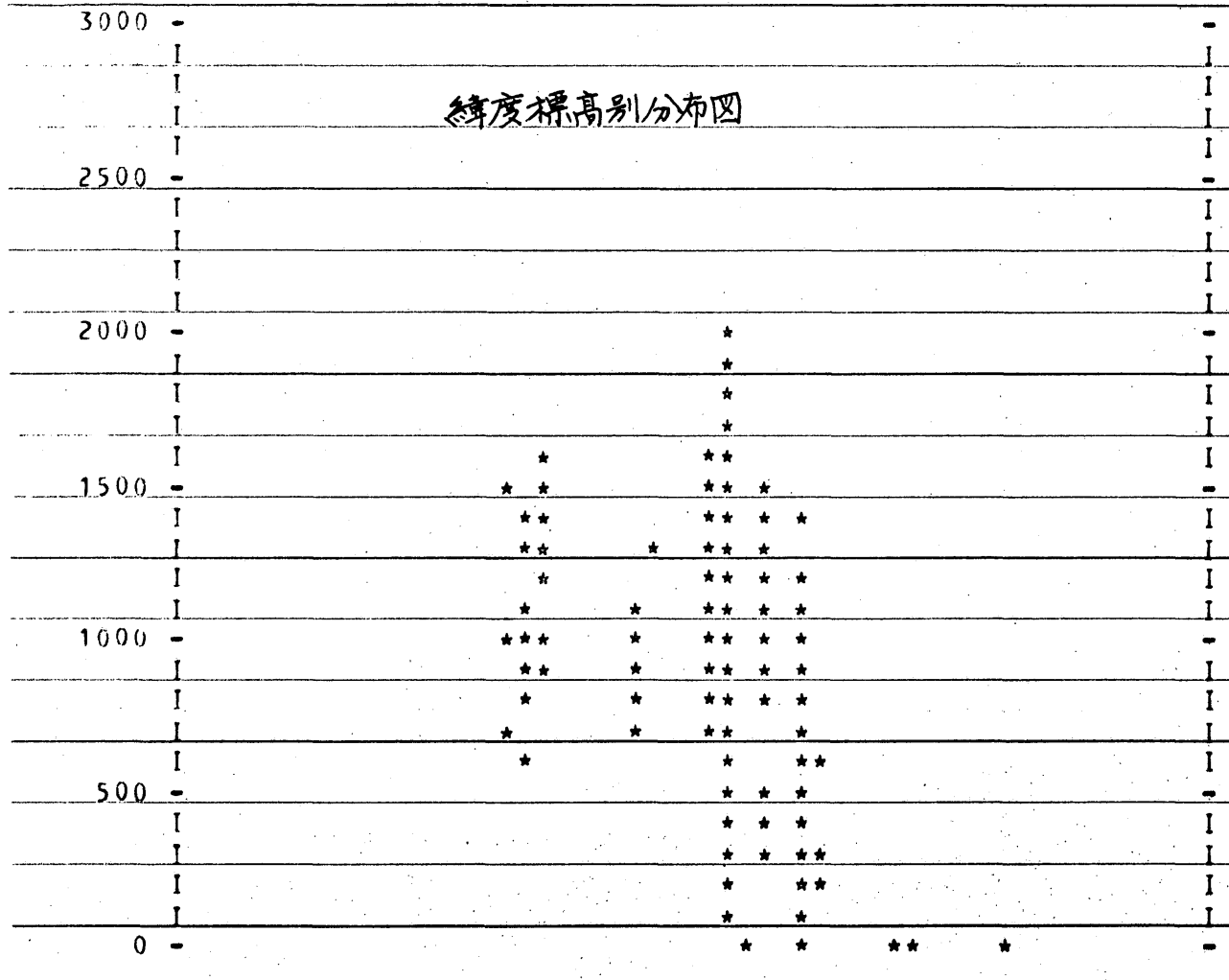
- 県別メッシュ数 500以上
- 100~499
- 50~99
- 1~49
- \* 出現県



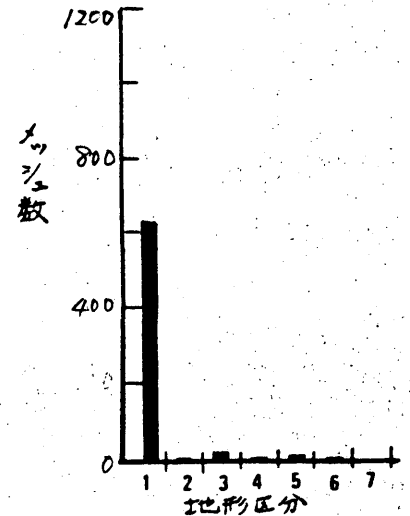
コード	群落名	メッシュ数	出現県
41700A	自然低木群落	680	北海道, 青森, 福島, 栃木, 新潟, 岐阜, 静岡, 滋賀, 島根, 熊本, 宮崎, 鹿児島
41700B	自然低木林	2	福井, 鳥取
	計	682	



-----|-----|-----|-----|-----|

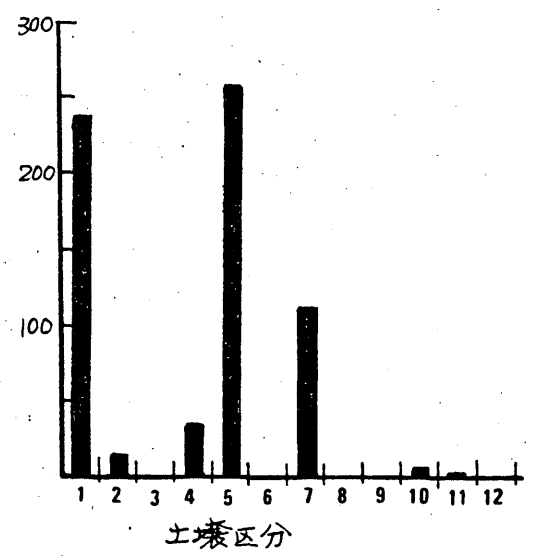


26 30 34 38 42 46 (1°)



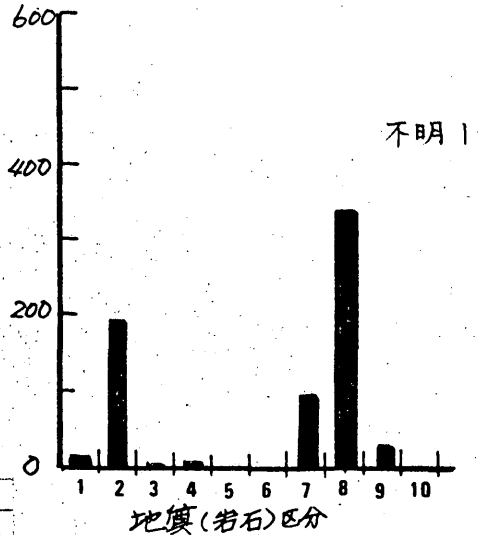
地形区分別頻度図

- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、緩丘
- 6 低地
- 7 河川、砂州



土壌区分別頻度図

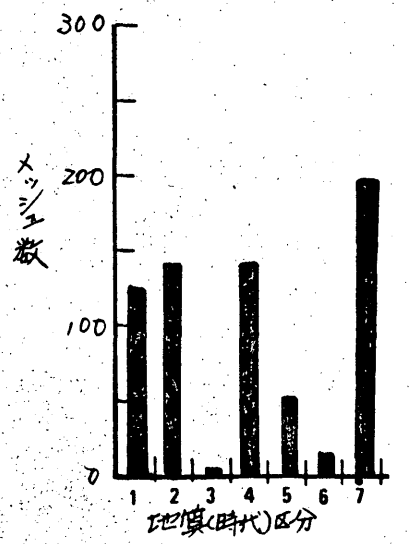
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他



地質(岩石)区分別頻度図

- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩、凝灰岩、流紋岩、安山岩、玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

ヒメヤシブシ-タニウツギ群落 *Alnus pendula*-*Weigela hortensis* community

<相観> 落葉広葉樹の低木林。群落高は5m程度である。

<生育地> 日本海側多雪地帯のブナクラス域から亜高山帯にかけて、急傾斜の崩壊地や雪崩地、斜面下部の崖錐などの不安定地に一般的にみられる。表層は礫荒原状をなし、やや乾性~湿性の立地を占めている。近畿、中国地方では背稜山地の山頂部や後線部の風衝地にみられる。

<種組成> 低木層にはヒメヤシブシまたはタニウツギが優占し、その他、キツネヤナギ、バッコヤナギなどのヤナギ属植物が一般的にみられる。近畿、中国地方の山地風衝地ではウスギヨウラク、ベニドウダン、シロヤシオなどのソソジ科植物とともに、ミスナラ、タンナサフツタキ、ツノハシバミ、リョウブなど森林構成樹種が低木層で生育している。草本層にはエゾニユウ、アマニユウ、トリアシショウマ、ヤマブキショウマ、クロバチヒキオコシ、キオンなどの大型広葉多年生草本植物が北日本を中心に広くみられる。近畿地方の山地風衝地ではイフキカサが特徴的にみられ、中国地方の山地風衝地ではヤマハツカ、ミソバツチ、クリ、オオバギオウシなどが生育している。このような群落はタニウツギ、ヒメヤシブシ、トリアシショウマ、アカソ、オオヨネギ、イヌカンソクを特徴種とするタニウツギ群団に含まれる。

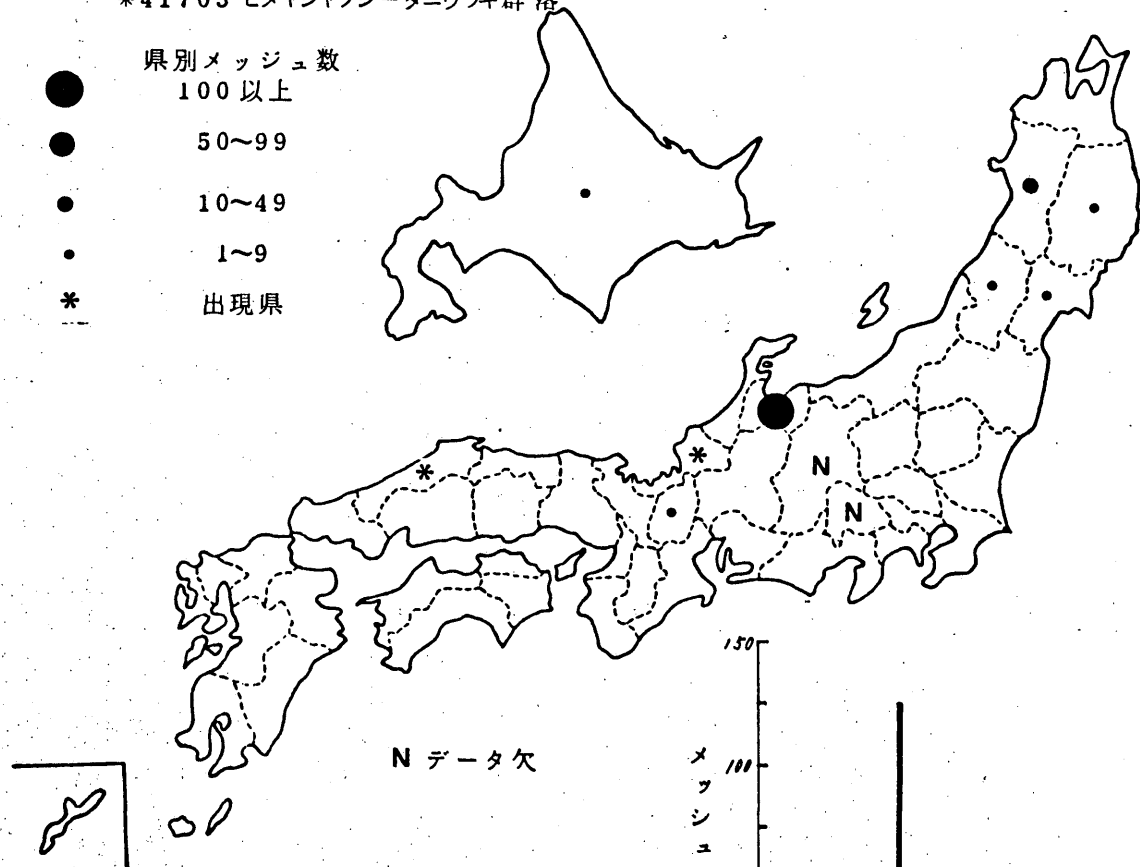
<群落の特徴> 日本海側多雪地帯の代表的な崩壊地植生である。ヒメヤシブシ、またはタニウツギが優占する落葉広葉樹の低木林である。

<分布> 日本海側多雪地帯のブナクラス域の崩壊地や崖錐などに、比較的小面積で帯状または斑状にみられる。北海道から島根県までにみられ、奥羽山地に多い。

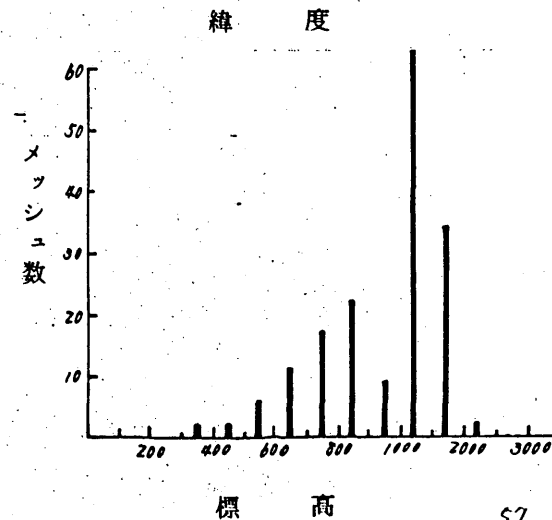
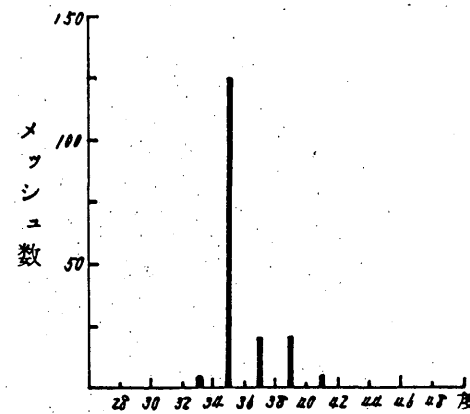
<その他> やや乾性の山地急斜面や、湿性の崩壊地、崖錐とは、それぞれ種組成が異なり、多くの群落を複合したものとして扱われている。

\*41703 ヒメヤシブシ-タニウツギ群落

- 100以上
- 50~99
- 10~49
- 1~9
- \* 出現県

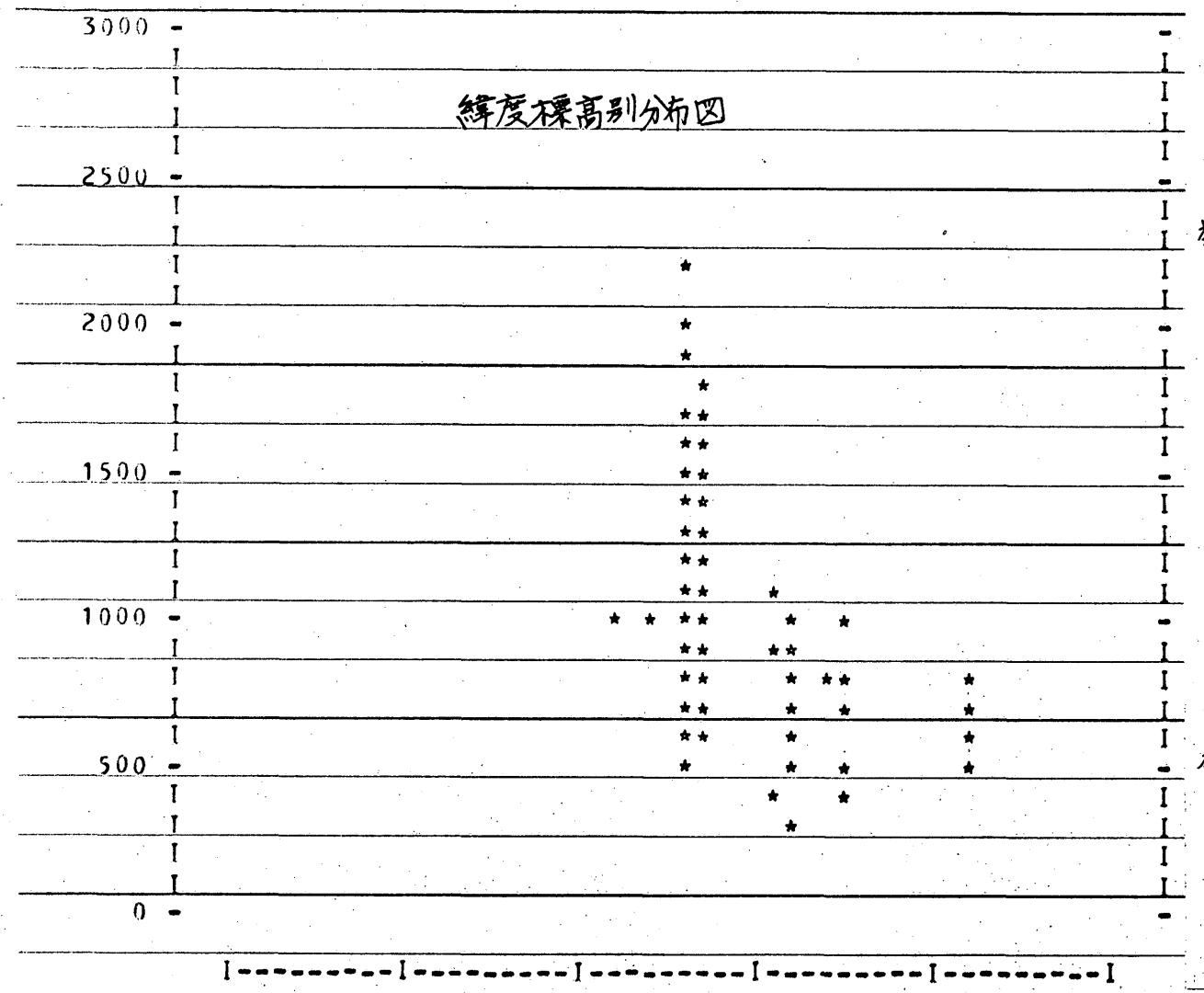


N データ欠



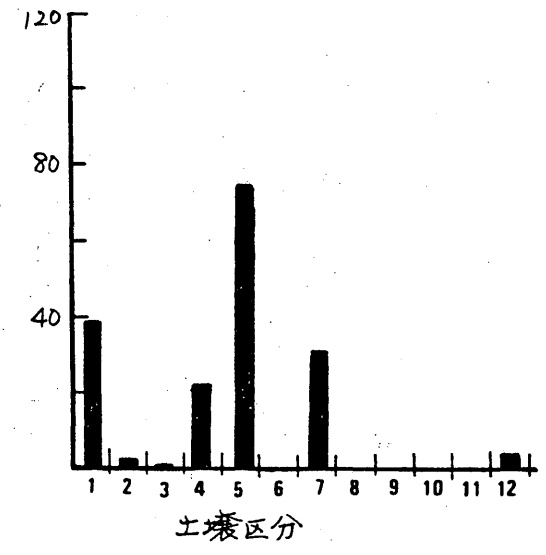
コード	群落名	メッシュ数	出現県
41703A	ヒメヤシブシ-タニウツギ群落	169	北海道, 岩手, 宮城, 秋田, 山形, 富山, 滋賀, 福井
41703B	タニウツギ-タニウツギ群落	0	島根
	計	169	

緯度標高別分布図



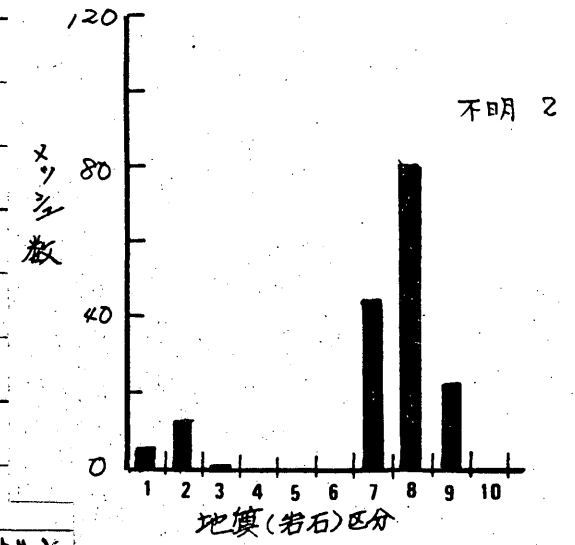
メッシュ数

土壌区分別頻度図



- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 老炭土
- 12 その他

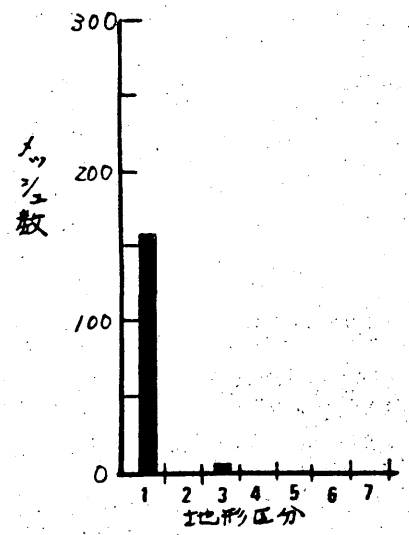
地質(岩石)区分別頻度図



- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩、凝灰岩、流紋岩、安山岩、玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

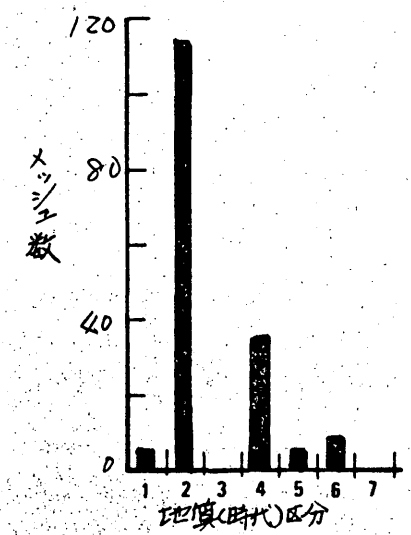
26 30 34 38 42 46 (10m)

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、緩丘
- 6 低地
- 7 河川、砂州

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他



自然草原

Natural grassland

〈相観〉 多年生草本植物の草原。群落高は夏季には2mに達するものがある。

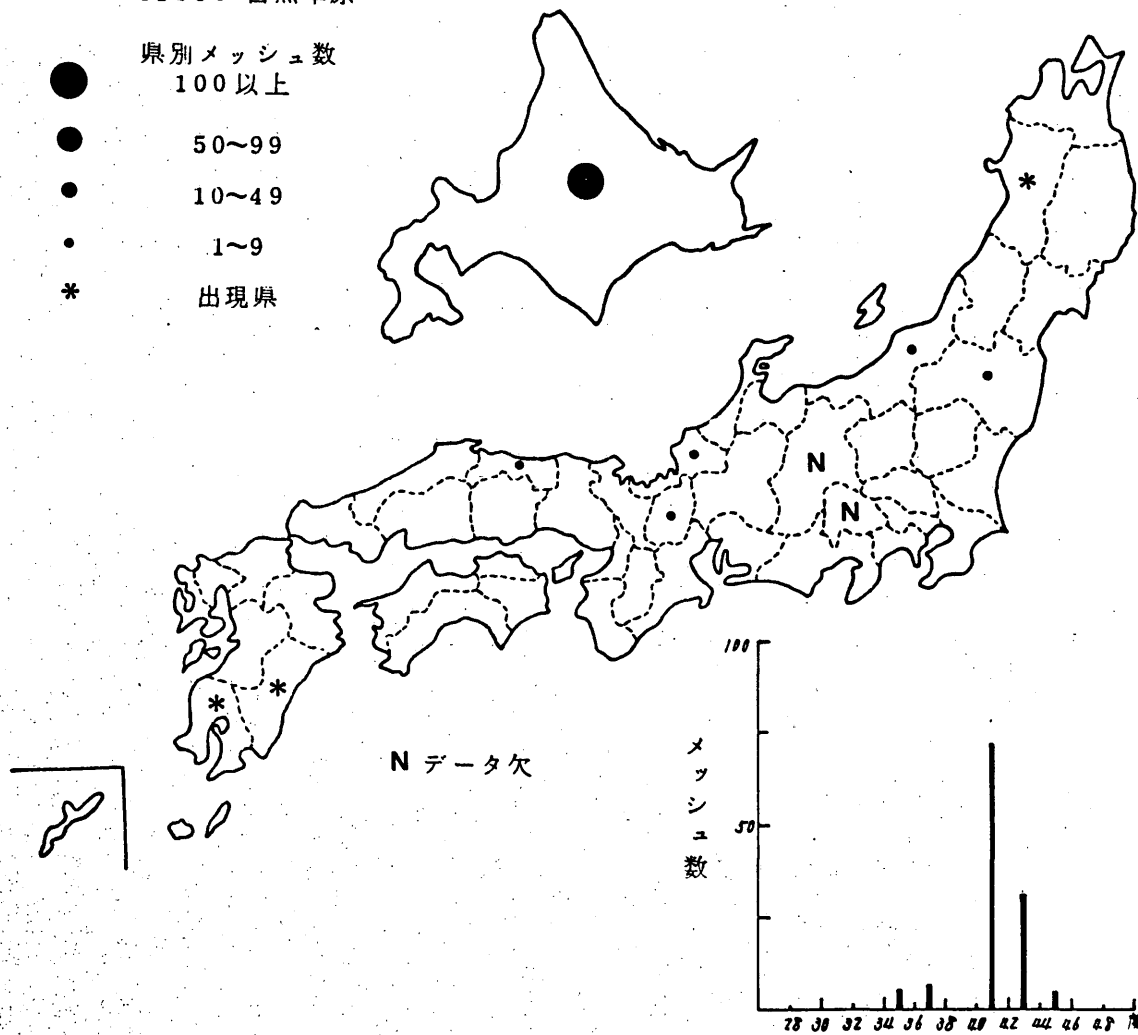
〈生育地〉 アラスカ域の山地の山頂部や稜線部の風衝地、急傾斜地や谷筋の崩壊地や雪崩地、湿地の周辺など、樹木が十分に生育できないところにみられる。乾性、通潤性、湿性の立地にあたり、礫の移動しやすい不安定地にもみられる。

〈種組成〉 北海道では道東のやや湿性の立地に、カワキョウ、タケキボウシ、ワリカネニレンシなど優占する草原が形成され、秋草類の花で彩られる。また肥沃な湿性立地ではアキカラマツ、チシマアザミ、アマニユウ、エゾイラクサなど高茎多年生草本植物が生育している。東北、北陸の日本海岸多雪地帯では、谷筋の湿性立地にオニシモツケ、クハバチヒキアコシ、オオヨモギ、ヤマアギシユウマ、オカトラノオ、キバチアキネリなどの高茎多年生草本植物が混生している。近畿では伊吹山、室仙山の石灰岩からなる山頂部の風衝地に、ルリトラノオ、コバノミミツグサ、コイフキアザミ、イフキレイジンソウなどの特産種と、フシタイフウロ、ハクサンフウロ、ヒメイスイ、ギンバイソウなどの寒地性植物が生育する特異な植物群落形成されている。中国の大山の周辺では、最も風衝の厳しい立地にコメバクガサクラ、ツガサクラ、イフカガミなど高山ハイチと共通する種群が生育している。また、積雪量の多い立地にはクガイソウ、ヒトツバヨモギ、サラシシマユマなどの高茎多年生草本植物が混生し、風衝を受けるが水分条件のよい南～西向斜面には、オオバキボウシ、シモツケソウなどの高茎多年生草本植物が生育している。三瓶山山頂部の風衝受ける乾性立地にススキ、クウコクササ、ミソバツチフリ、オオアブラススギ、サマハキなどが生育している。九州の霧島山系ではキリシマコササが優占し、トクシバ、ススキ、リントウ、オトギリソウなどの混生するササ草原が山頂部風衝地や湿地の周辺にみられる。このように地域、立地により異なる種組成をもつ群落を一括している。

〈群落の特徴〉 アラスカ域の風衝地、雪崩地、多雪地など、高木が成立しえない厳しい環境条件のところに分布する多年生草本植物の草原である。種組成の異なる多くの群落を一括している。

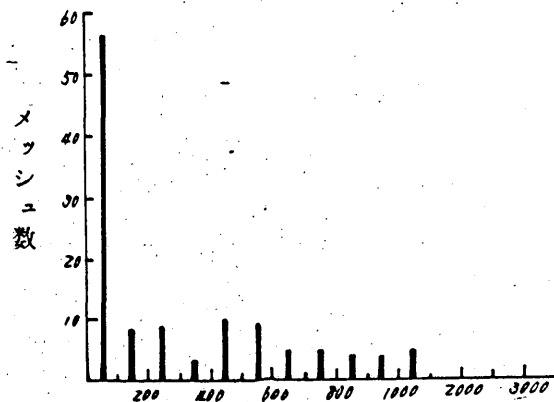
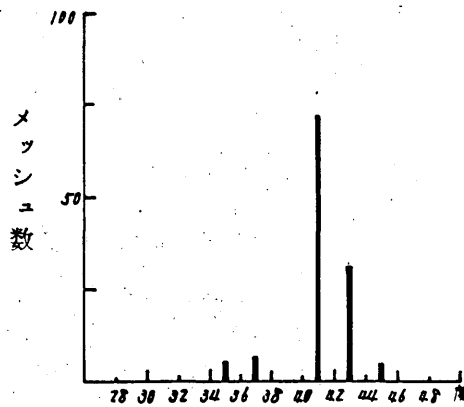
\*41800 自然草原

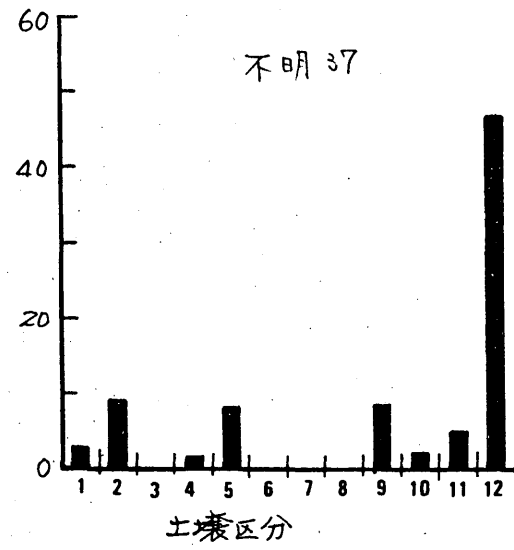
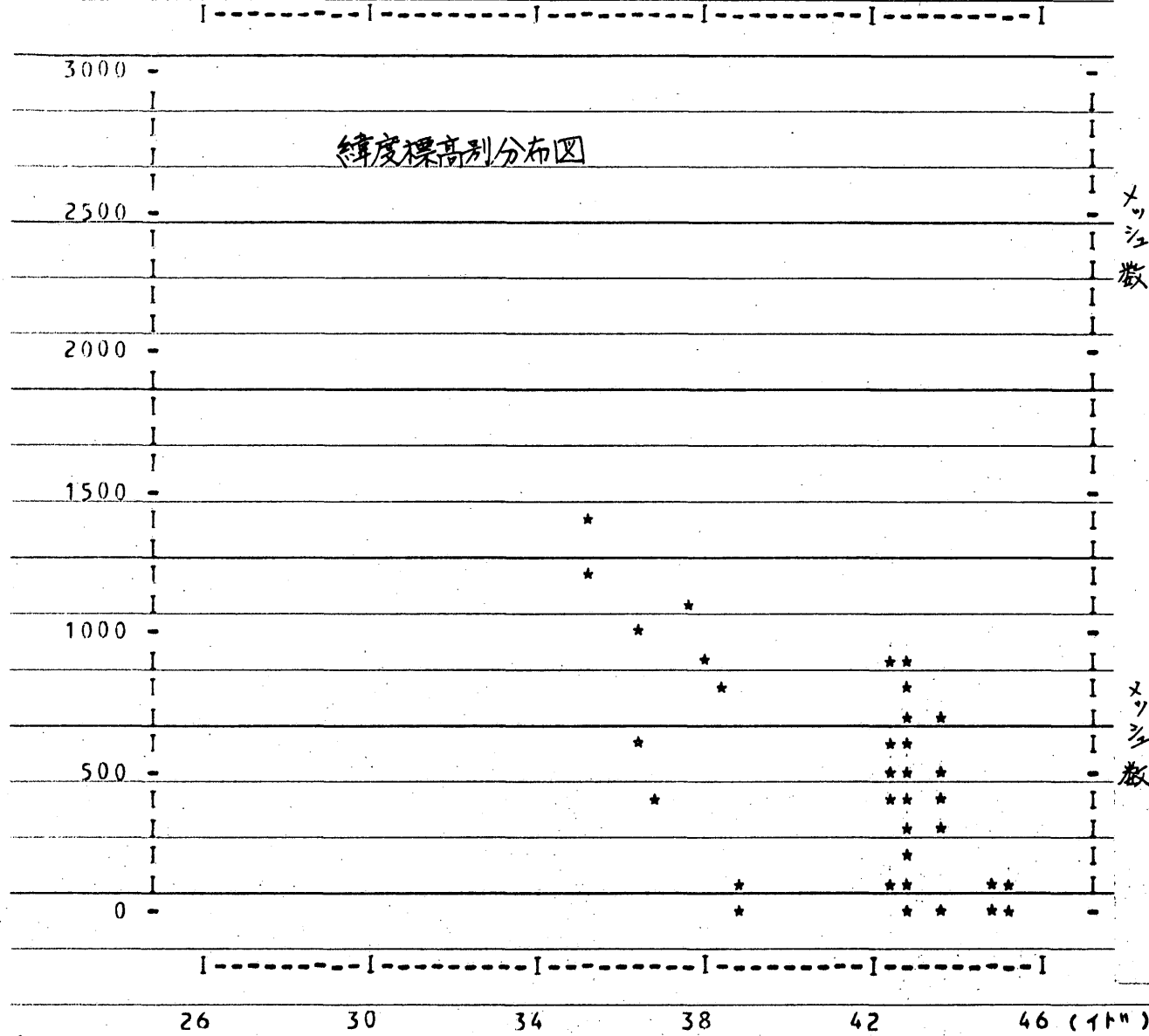
- 100以上
- 50~99
- 10~49
- 1~9
- \* 出現県



コード	群落名	メッシュ数	出現県
41800A	自然草原	94	北海道, 秋田, 福島, 新潟, 福井, 滋賀, 鳥取, 宮崎, 鹿児島
41800B	風衝草原	5	北海道
41800C	高茎草原	27	北海道
	計	126	

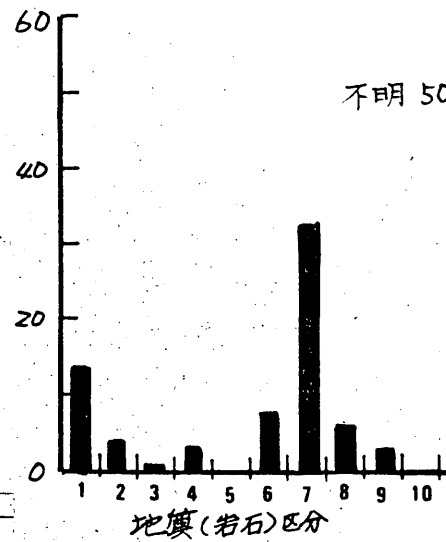
\*1県で2群落以上出現する場合、メッシュ数のもとより多群落





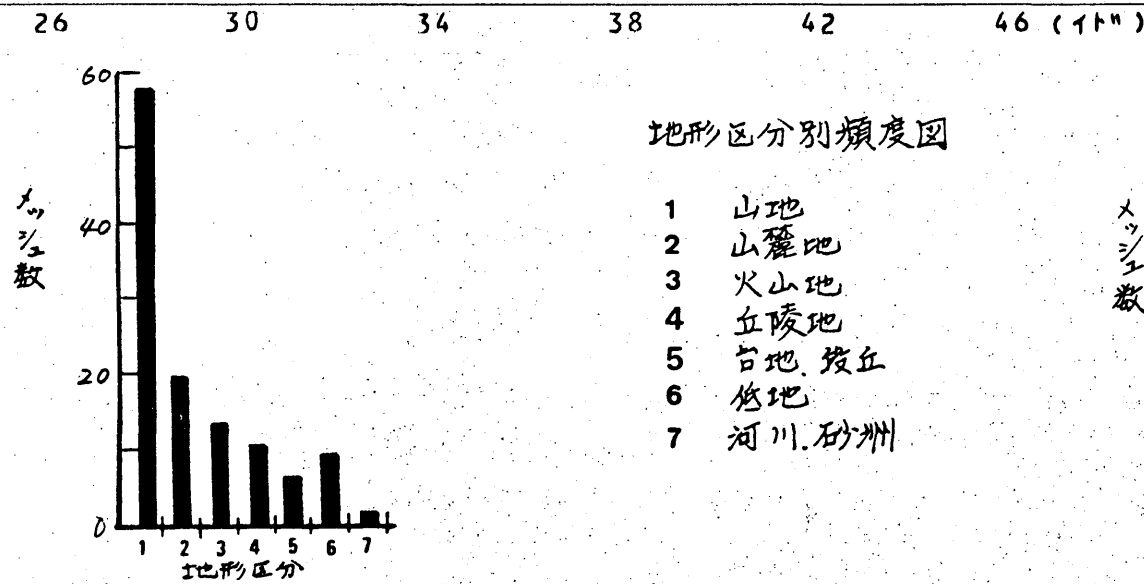
土壌区分別頻度図

- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他



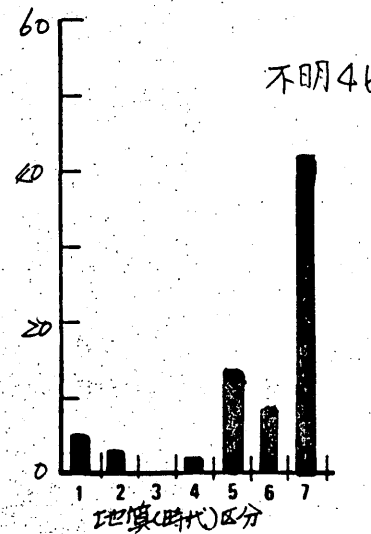
地質(岩石)区分別頻度図

- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの



地形区分別頻度図

- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 緩丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂洲



地質(時代)区分別頻度図

- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

ブナ-ミズナラ群落 *Fagus crenata* - *Quercus mongolica* var. *grosseserrata* community

〈相観〉落葉広葉樹の高木林，亜高木林。群落高は10~15mが一般的である。

〈生育地〉チシマササ-ブナ群団およびススタケ-ブナ群団のブナが伐採された跡地に再生する。平坦または緩傾斜の土壌の発達した適潤地に特に多くみられる。採伐地 又は小規模な伐採地にみられるが、さらに伐採がくり返されると萌芽性の強いミズナラが優占するクレーミズナラ群落などに移行する。自然植生としては急傾斜地や稜線部の乾性地帯、低標高地のブナ林と下部ミズナラ林との移行帯に分布している。

〈種組成〉チシマササ-ブナ群団，ススタケ-ブナ群団の構成種が多く、一方、低標高地のコナラ林に出現する好陽性植物も比較的多くみられる。高木層にはブナ，ミズナラ，イタヤカエデ，ネオノキ，リュウグウなど，亜高木層にはコハウケツカエデ，マンサク，ナツツバキ，コレアブラ，ハクウンボクなど多種の落葉広葉樹が混生している。低木層には日本海側ではオオバクロモジ，マルバマンサク，ヒメアオキなどが特徴的にみられ，乾性地にはシロヤシオ，ムラサキヤシオ，トウコクミツバツツジなどのフジ科植物が生育し，その他オオカメノキ，ミヤマカマスミなどが広く生育している。草本層には日本海側ではチシマササ，チマキササなど，太平洋側ではススタケが優占するコトが多く，フルアジサイ，ショウジョウバカマ，シシカシラ，シヤマカンスゲなどもみられる。

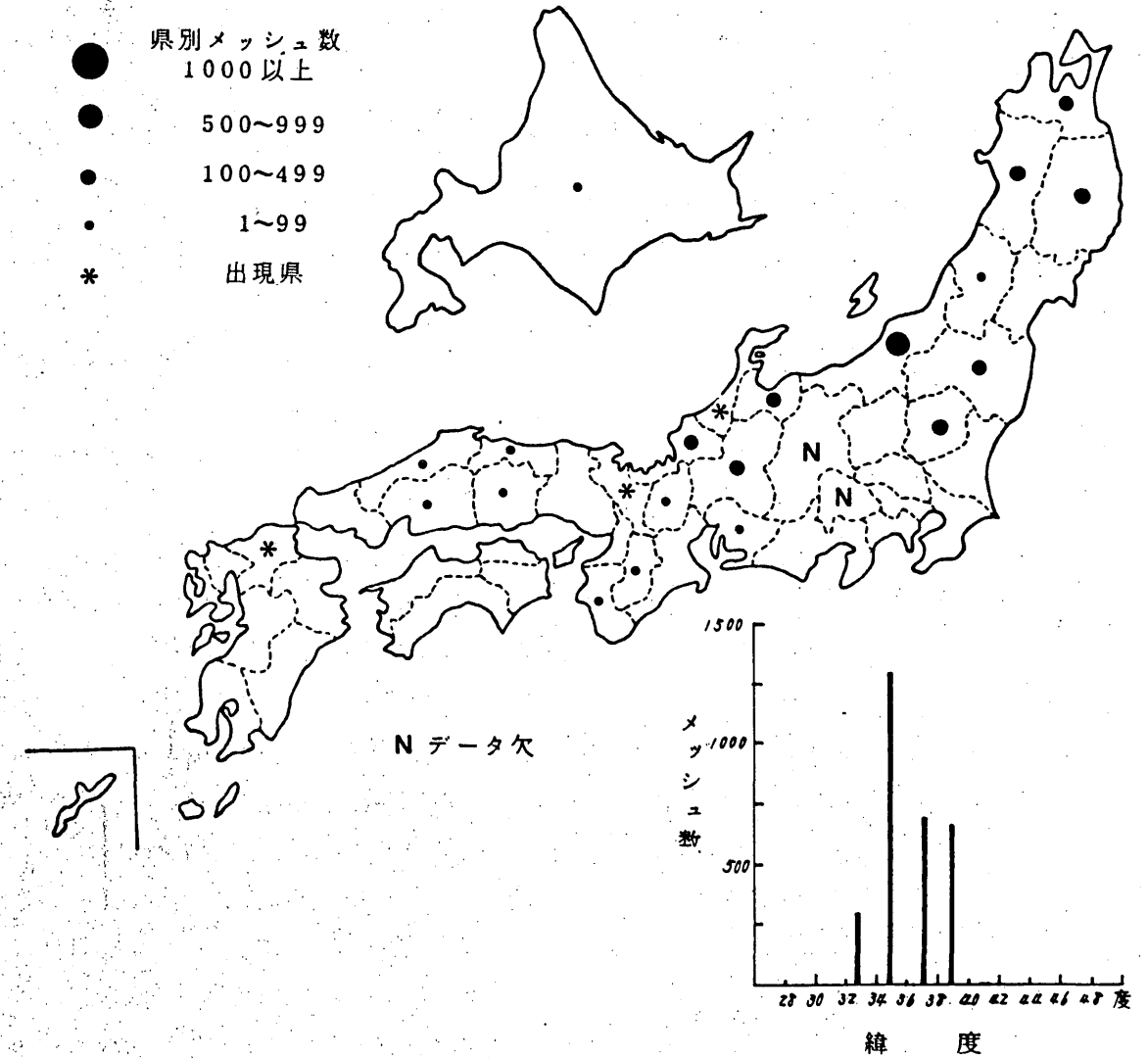
〈群落の特徴〉ブナクラス域のブナ林の伐採地に再生する二次林で、ブナにはミズナラの優占する落葉広葉樹林である。

〈分布〉ブナクラス域下部を中心に分布している。

〈その他〉チシマササ-ブナ群団やススタケ-ブナ群団の多くの群落，群落の二次林であるため、種組成は多様である。

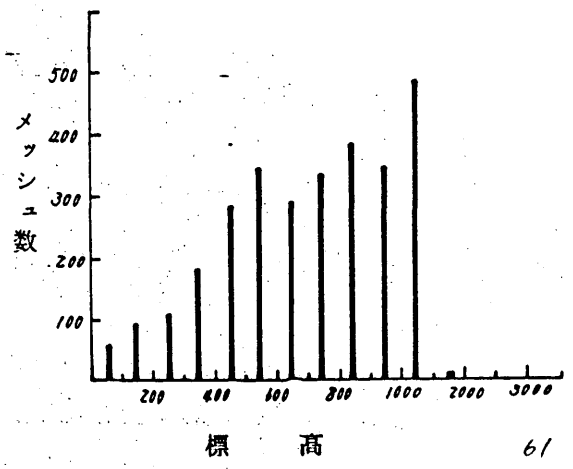
V. ブナクラス域代償植生  
\*50100 ブナ-ミズナラ群落

- 県別メッシュ数 1000以上
- 500~999
- 100~499
- 1~99
- \* 出現県



コード	群落名	メッシュ数	出現県
50100A	ブナ-ミズナラ群落	2907	北海道 青森 岩手 秋田 山形 福島 栃木 新潟 富山 石川 福井 岐阜 愛知 滋賀 京都 奈良 和歌山 鳥取 島根 岡山 広島 福岡
50100B	ウダイカバ群落	4	秋田
	計	2911	

\* 1県で2群落以上出現する場合、メッシュ数のおとしは、群落

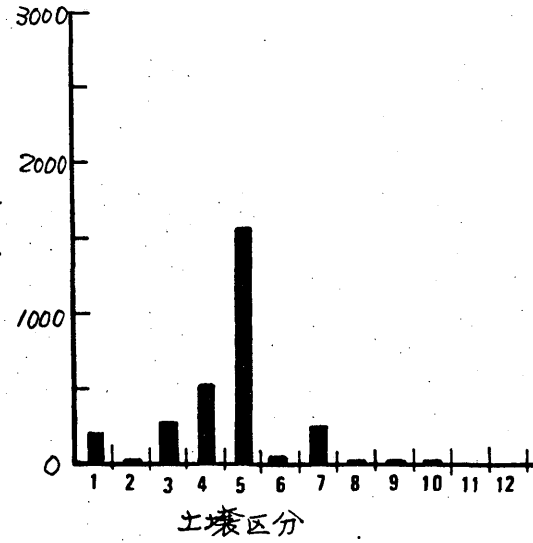
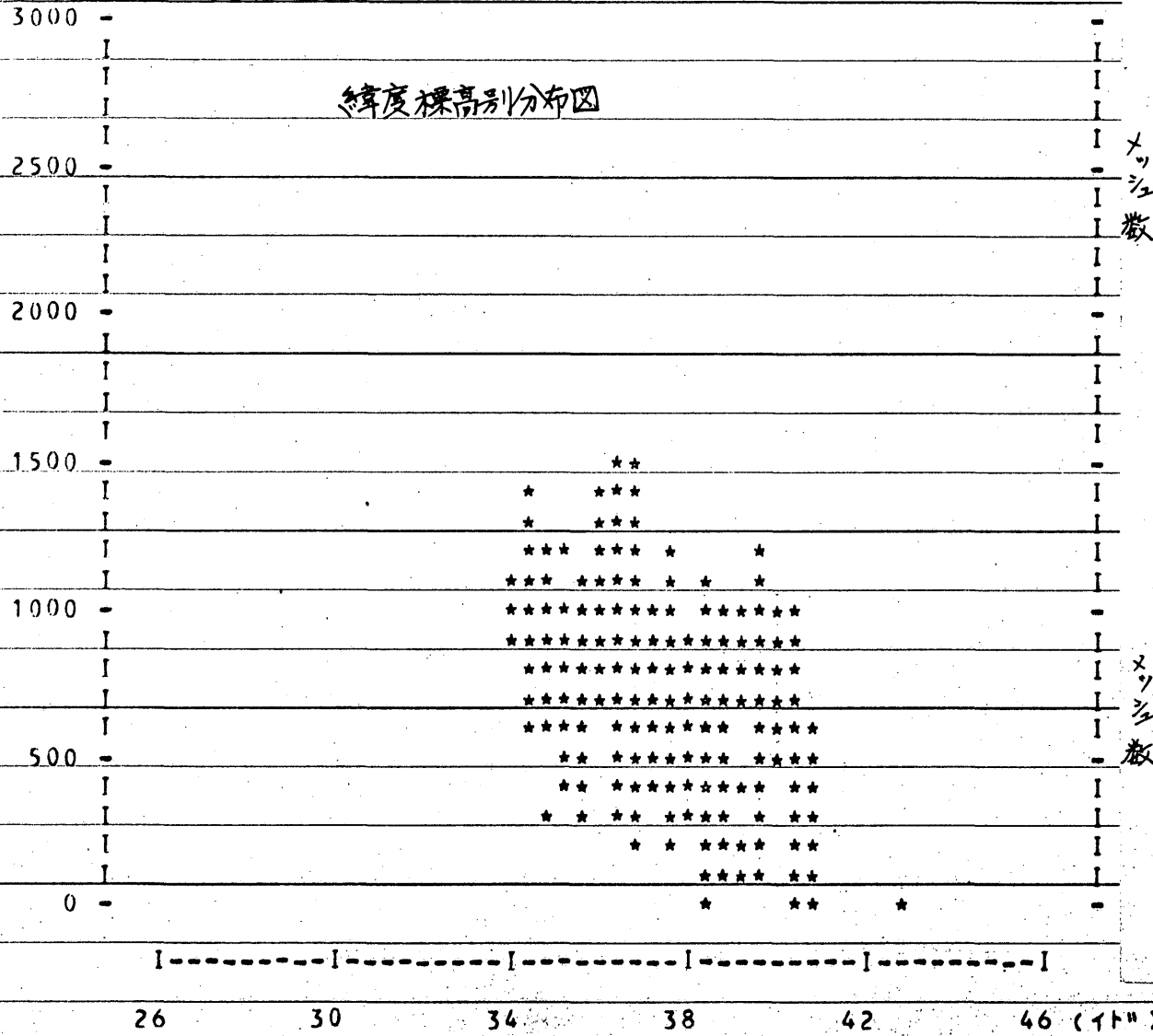


(ヒヨウ)

# ブナミズナラ群落

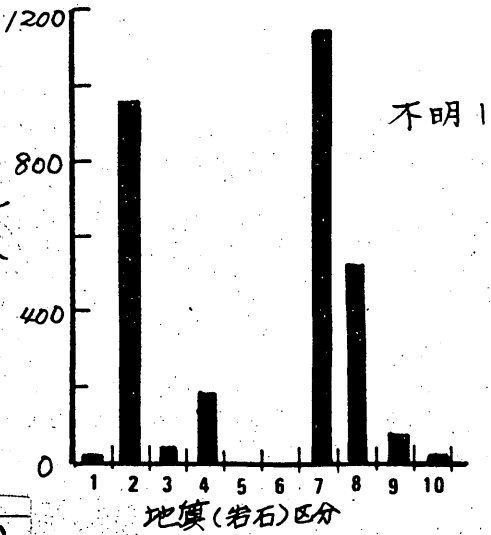
( \*50100 )

-----



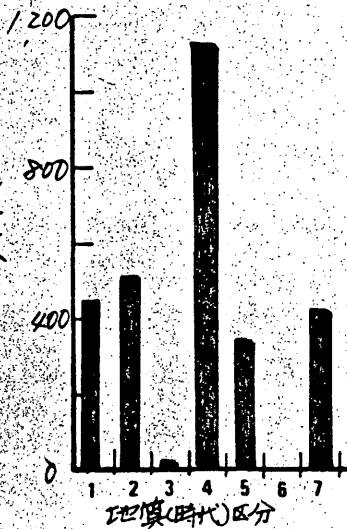
土壌区分別頻度図

- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他



地質(岩石)区分別頻度図

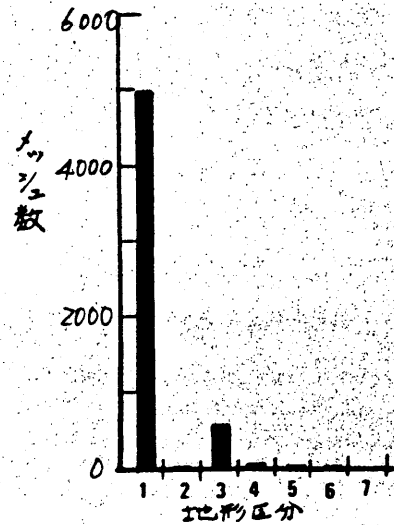
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (凝灰岩、流紋岩、安山岩、玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの



地質(時代)区分別頻度図

- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

26 30 34 38 42 46 (1°)



地形区分別頻度図

- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、緩丘
- 6 低地
- 7 河川、砂洲

〈相観〉落葉広葉樹の高木林、亜高木林、萌芽林である。群落高は10~15m、時に20mに達する。

〈生育地〉ブナクラス域下部からヤブツバキクラス域上部にかけてのブナ林、ミズナラ林、モミ林などの伐採跡地に再生する。山腹斜面、土壌の発達、よい板線部など、適潤からやや乾性の立地に発達している。旧新炭林やススキ伐取草原跡に自然復旧したものも多く、人為的影響の程度はブナ-ミズナラ群落より強い。

〈種組成〉高木層にはミズナラが優占することが多く、その他クリ、コナラ、イヌシデ、フマシデ、リョウブ、ハリギリなどの落葉広葉樹が高木層、亜高木層に混生している。林床は立地条件、分布地などの差異により、多様なタイプに区分される。低木層には日本海側ではチシマザサ、クマイザサ、オオバクロモジなどが特徴的に優占し、中国地方ではタシナサフタギ、クロモジなどの存在度が高い。太平洋側ではスズタケ、ミヤマコザサ、ツクバネウツギなどが特徴的にみられる。

その他乾性にはヤマツツジが広く生育し、血葎以西ではコバノミツバツツジ、ダイセンミツバツツジなどのツツジ科植物が生育している。草本層にはチゴユリ、シシガシラ、アキノキリンソウ、ミヤマナルコユリ、ミヤマカンスゲ、カンスゲ、ミヤマイダチシダなどが広く生育している。このような人為的影響を比較的強く受けているミズナラ優占林はクリーミズナラ群落として一括して扱われている。

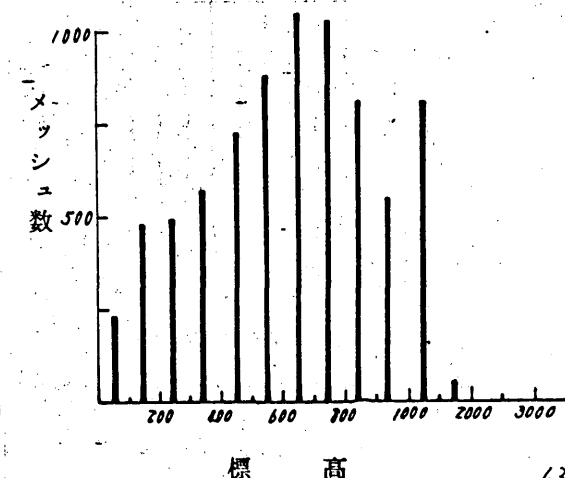
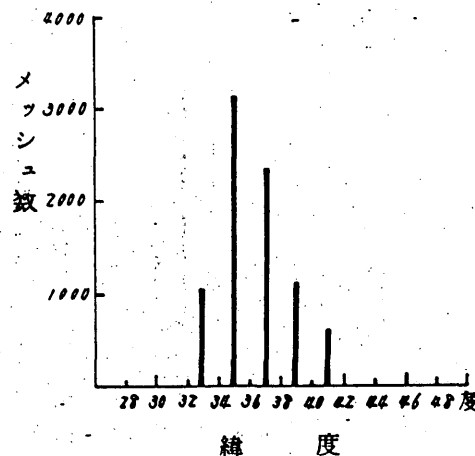
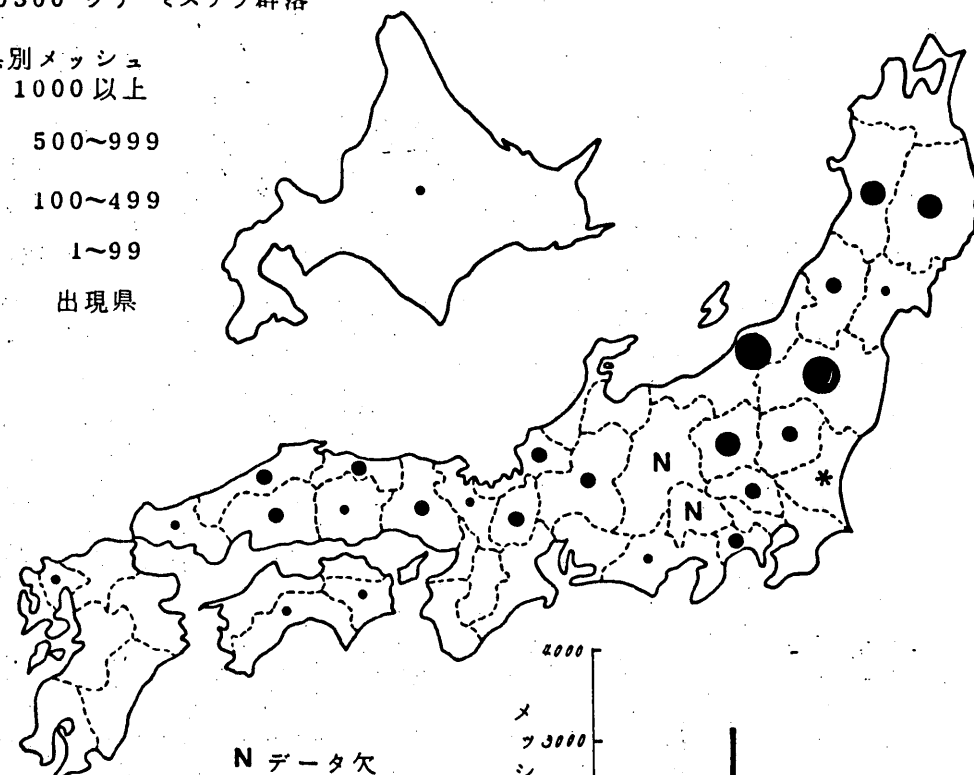
〈群落の特徴〉ブナクラス域下部からヤブツバキクラス域下部にかけてのブナ林、ミズナラ林などの二次林である。萌芽性の強いミズナラ、またはクリの優占する落葉広葉樹の高木林である。

〈分布〉ブナクラス域下部からヤブツバキクラス域下部に分布している。日本海側ではコナラとミズナラが混交することが多く、同群落が広い面積を占めている。

〈その他〉チシマザサ-ブナ群団やスズタケ-ブナ群団の多くの群集、群落の二次林であり、しかも人為的影響が強い。そのため群落全体にわたって出現する共通種に乏しい。種組成的にはさらに細分される可能性がある。

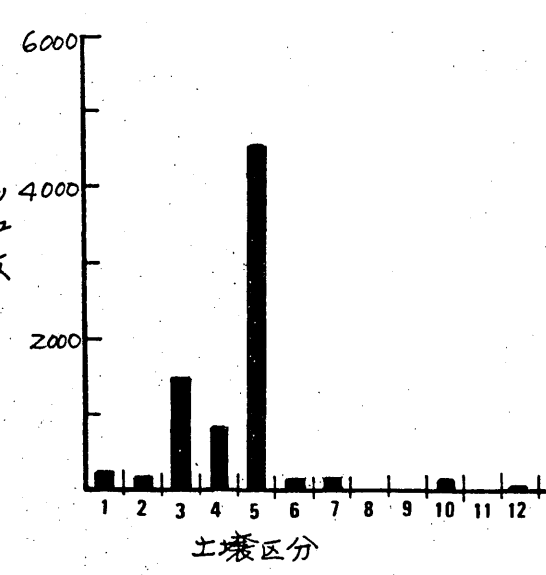
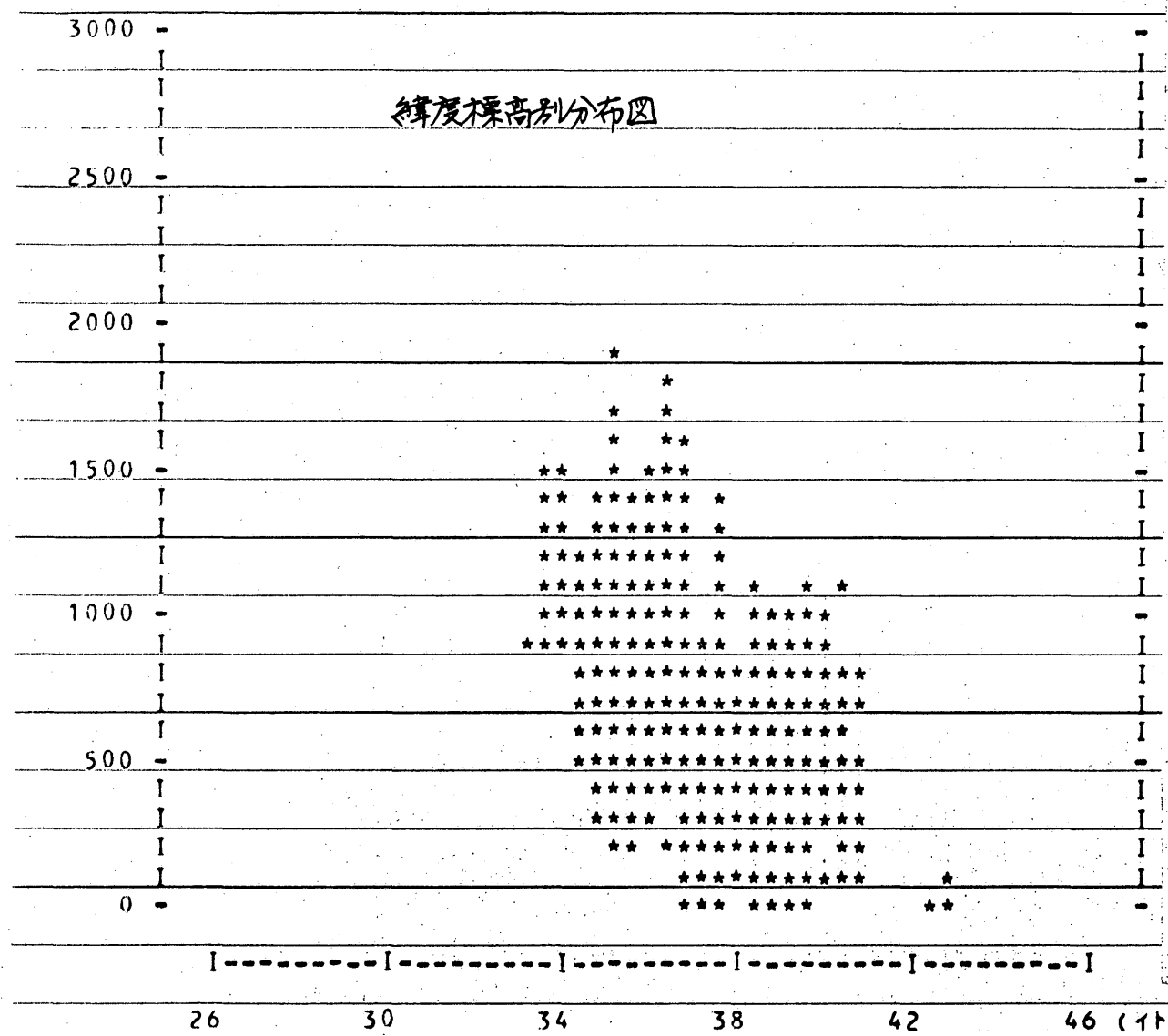
\*50300 クリーミズナラ群落

- 1000以上
- 500~999
- 100~499
- 1~99
- \* 出現県

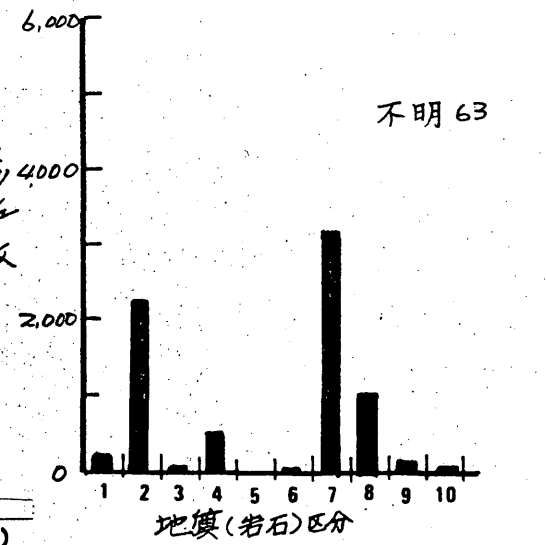


コード	群落名	メッシュ数	出現県
50300A	クリーミズナラ群落	4850	北海道、岩手、宮城、秋田、茨城、栃木、群馬、神奈川、福井、岐阜、静岡、滋賀、京都、兵庫、鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、高知、佐賀
50300B	ミズナラ-クリ群落	154	埼玉、高知
50302C	カスミザラ-コナラ群落	2224	福島、新潟
50300D	シロモジ群集	118	滋賀
50300E	ミズナラ群落	143	山形
50300F	コナラ群落	139	山形
50300G	リョウブ群落	12	栃木
50300H	ヘビコザ群落	1	栃木
	計	7641	

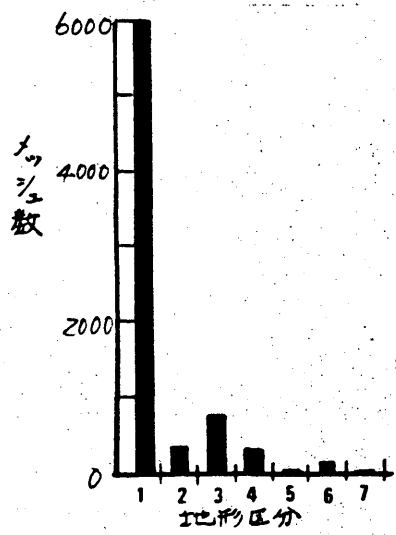
\*1県で2群落以上出現する場合、メッシュ数のもとより、群落



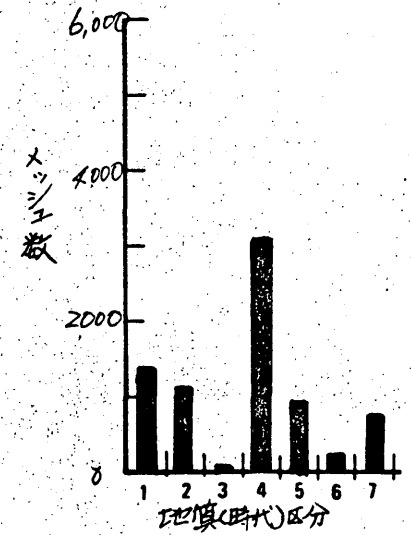
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他



- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩、凝灰岩、流紋岩)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、残丘
- 6 修地
- 7 河川、砂洲



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他